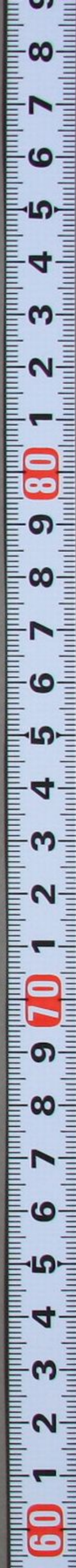




尾張名所圖會  
後編

二







尾張名所圖會後編卷之二

目錄 中島郡下

尾張大國靈神社 末社

夜難負の園 神主

宗形神社 大御靈神社

大江匡衡教導の園 修理若御子社

伊奈波名神社 金名神社

久多神社 天背男命窟居跡

專正寺 長杜天神社

光堂橋 中島郷

観音寺 萩原驛

玉江御厨 鞠江神社

信長公富田道場小至りり事

例祭

社僧成徳院

國衙廳館跡

観音寺

禪源寺

久田氏宅址

木全又左衛門宅址

中島左衛門尉宣長

萩原川

名産生姜

起川

難負捕の園

大日堂

學校跡

稻葉驛

齋所權介成清

茜部天神社

長隆寺

串作の里

吉藤里

聖徳寺

起川



頓長寺

堤治神社

吉田權現社

木曾川普請障屋跡

性海寺

蒙古降伏修法の圖

長谷部氏宅址

千代氏御園

千代名神社

土宮大明神社

桂林寺

大中臣安長塚

八面森

愛智御曹司八面鬼と双六と打圖

益田森

加納院

馬橋

東源寺

增田右衛門尉長盛

大屋中三安資

淨土寺古跡

瀧川氏城跡

小富士塚

大富士塚

裳咋神社

敢臣船主

坂手神社

臨門天神社

願應寺

賣夫神社

屯倉舊跡

生業神社

牛頭天王社

一時上鷹の圖

長福寺

國分寺廢跡

鈴置地神社

圓光寺

圓興寺

名産大根切干

船橋舊跡

船橋觀音堂

國鎮寺

白山權現社

山口保

野見神社廢跡

淺井神社廢跡

河俣下天神社

善應寺

八劍社

布智神社

正琳寺

王塚

德永法印城墟

八劍宮社

伊福部御厨

湍江神社

中野渡

名産櫻鮫

永張寺

神明社

祖父江古城址

祖父江竿鷹

長岡莊

轟川

皇大明神社

柳御園

神明社

地泉院

尾張大國靈神社尾張府宮村

延喜神名式小尾張大國靈神社本國帳の從

一位尾張大國靈大名神と云ふなり今國府宮總社大明神と稱し

奉る抑當社本州の國靈にして尊神大己貴命往昔五月六日此地にり

りりまて中島直の祖天背男命と契約し凶暴と鎮めり所の

御神なり光仁天皇の室龜二年二月十三日官符を下して宮造と定

りりし文徳天皇の仁壽三年六月官社小列し代々の進冠も

ありし後鳥羽帝の文治二年三月從一位土御門帝

の建仁元年二月正一位の神階おはすなり龜山帝の弘長元

年官号の宣下りしなり神徳目に弥塔り靈驗殊

小著し妙興寺に所藏する嘉祿元年八月の廳宣にも一國之總社

府中勸請之敬神と云ふるなり國中の四民尊崇たす神廟なり

文徳實錄云仁壽三年六月丁卯以尾張國大國靈神大御天神憶感神

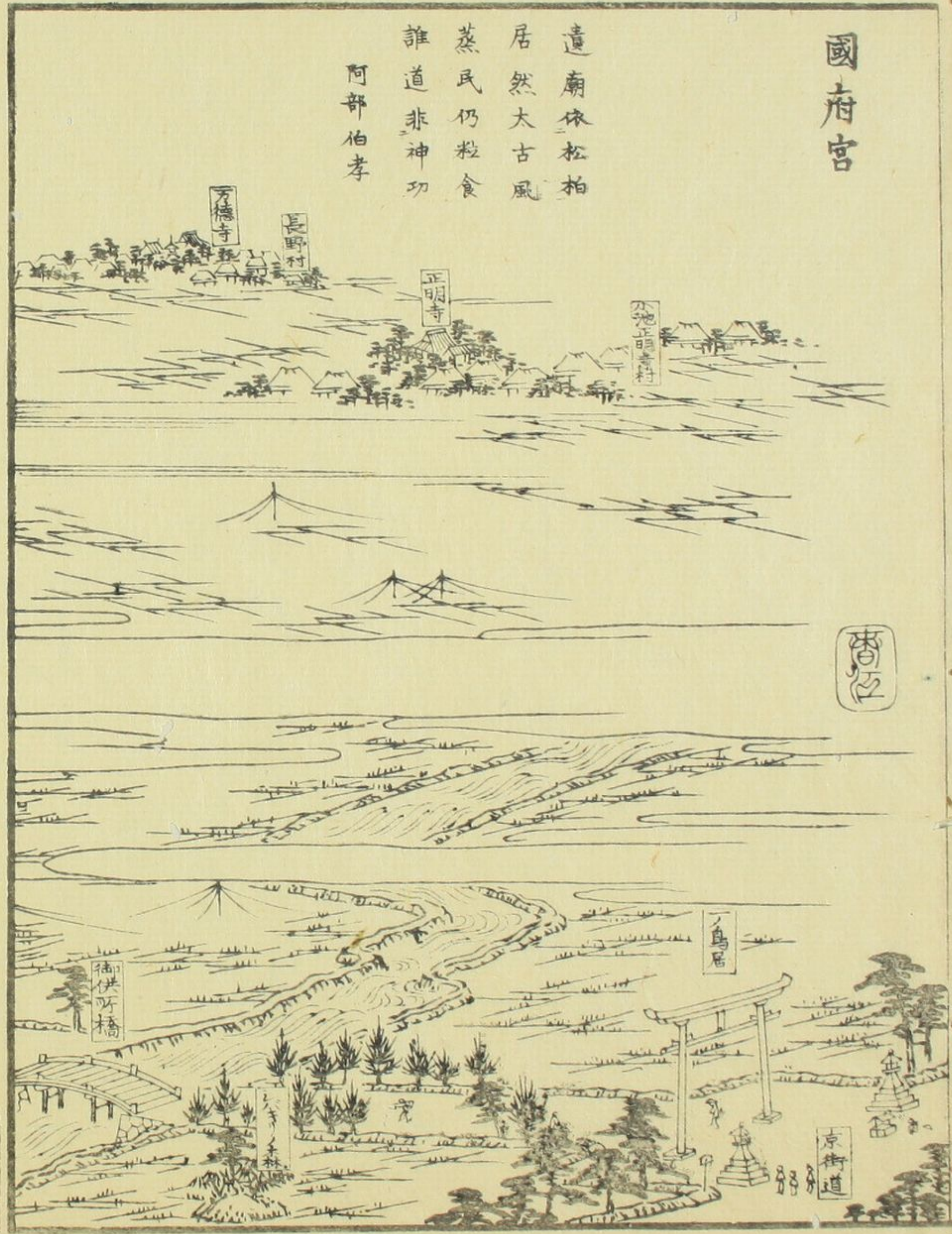
等列官社

○本社南向祭神大國靈命大己貴命伊弉册尊天照大神素盞烏尊

拜殿樓門と稻田姬命活玉依姬命手摩乳神足摩乳神等と合せり

國府宮

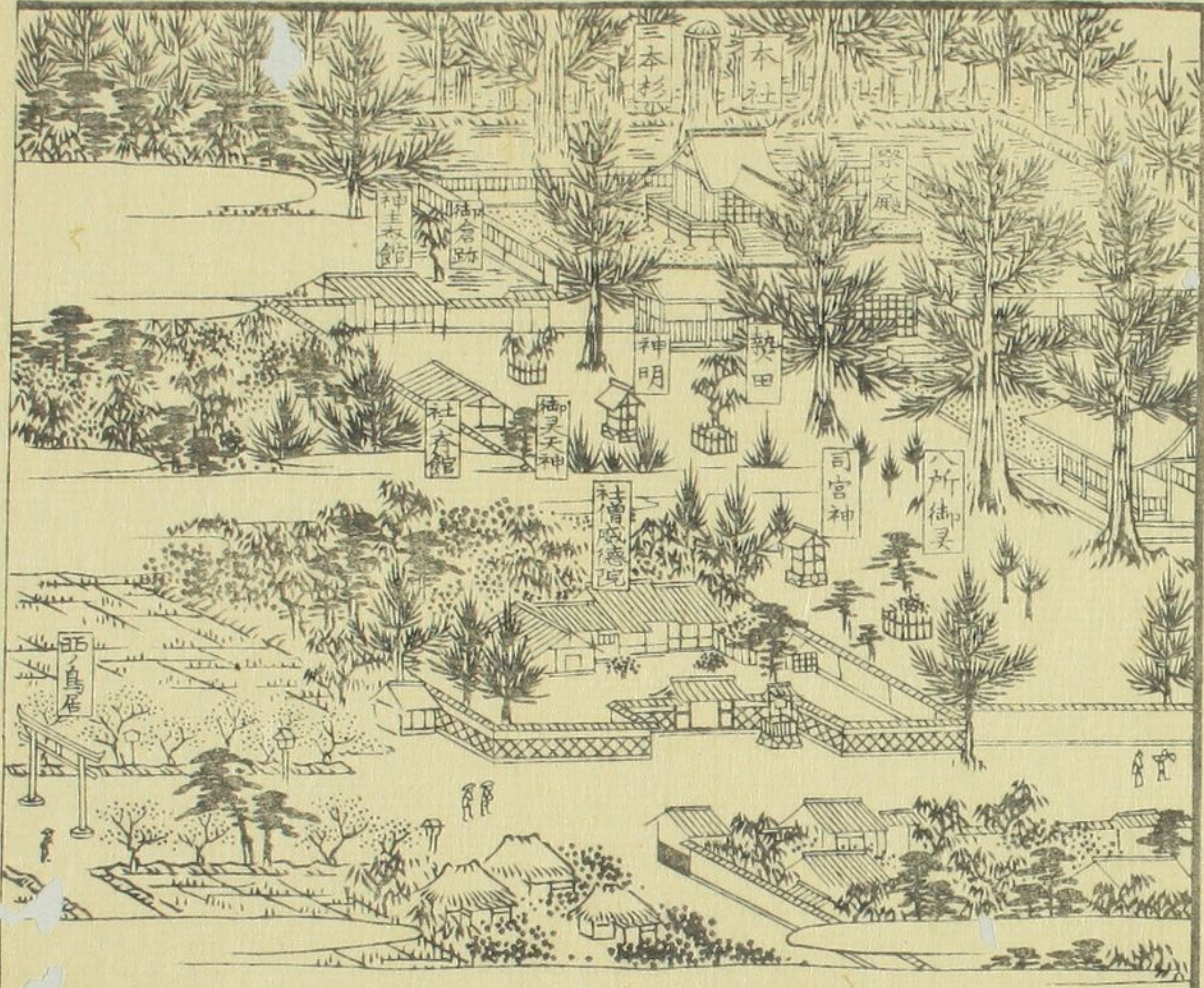
遺廟依松柏  
居然太古風  
蒸民仍粒食  
誰道非神功  
阿部伯孝



香

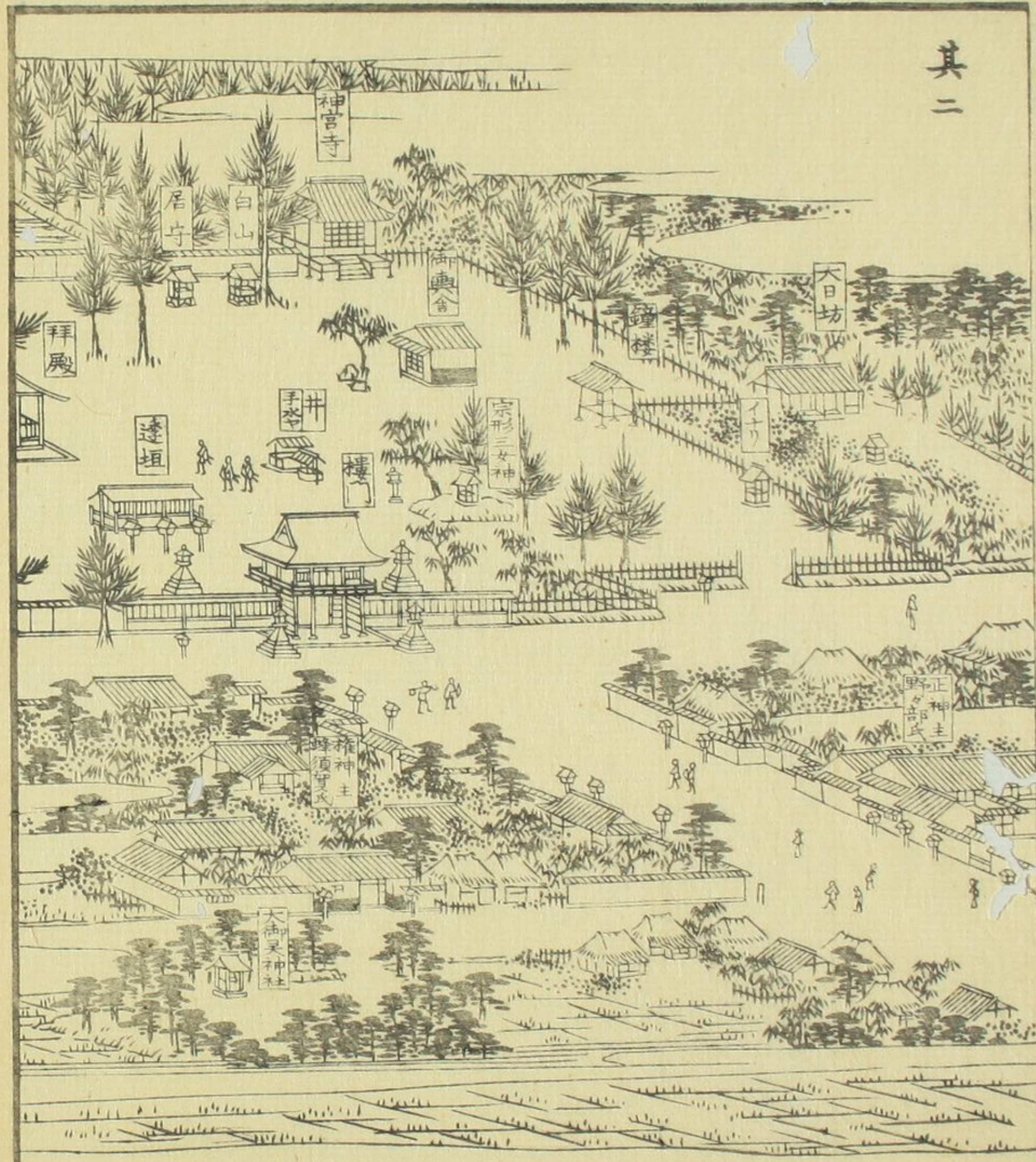
清江のほとり  
三株の杉樹あり  
これらもあはれ  
清江のほとり  
羽滋即中島  
連秀もあはれ  
ついでにけし  
梅津田原乃  
清江とあはれ  
信景





天保七年丙申不稔世の中  
祈年祭湯治り至暦末を  
おとす候に於て  
世帯一や臣博一考の  
ついでに  
沙鷗

其二



尾法のや  
大高天神の  
ことりひて  
ついでに  
民ハマ  
中  
茂岳

くわに諸殿歳々小建つゝおまきり控同く照らん

のうらにわつて社家村の崇敬は是 大穴持命の像石あり能登國明昨郡に大穴持像石

神社とわつ同例なり保小弘法の像石と稱して大洞の故事とつゝは諸君より君山翁より

三本杉 本社の山にあり大已貴命とある社山杉と神木 政所 本社の東南の方にあり

大教より正月十三日の神事二月 古陵 政所の北にあり 大國主命の御陵ともまて天昔男命

六日のあまのひに敷いて執行し 末社 神明社 國幣主尊 天神社 少彦名命 司官神社 猿田彦命 熱田社 日本

とあり今社より 宇賀神社 俗に務高 居森社 津島に居森 白山社 善理姫命 武尊

八所御靈社 今社あり神と 辨財天社等あり ○神寶 大鈴一 大鳴と名 づく往古

の鉄函の致うり公式令に諸君お務つゝ流の負教との已續日本紀以下の國史 司官神假面

一 正月の祭礼の政所にお儀 猿田彦の面も稱して社家の筆珠にも景次政事要畧の十

二月追儼の条に方相氏疫鬼と述入國ありは假面方相氏小類として附しき古器なり

其外古物多く織田豊臣あたま 東照官及び 性高院君より 賜ひ一制札終状お甚多し又嘉禄曆仁等の廳宣ともり建武

弘安嘉元曆應等に公家武家より尚社寄進の澄状を多く妙具 寺に持造り其神領も多くありて今も返務あり ○例祭 神前

奉幣

正月元日寅刻神主社中神前に祈ひつゝ三月廿五日神燈と擬す 御田神事 十日

日辰刻神子方非あ方の相友神前におひて地りも神池形も妙もの 土餅封神事 十日

み宅よりとらぬ神事 難負神事 十日 俗に難負祭といふ年中行交故實者に當り國府

寺におひて行りてあり行儀の人とてこれか一木の厄と擬して進神の進儀の政所今も賢州白子

の祝もちとて行りてあり又和州長谷より二月修正の法と修儀者お熱四の神儀もつゝ四月五日

修正と行ひ鬼と述ふこれより俗説の難負祭と人分りのやにりひ修儀者お熱四の神儀もつゝ四月五日

ほ母の誤りより國府宮の慶用少の儀は唐画の吉祥天女より社家の家ハ福田張の儀よりあり

又より諸本の國分寺より吉祥天海過の法と修儀の法と行りてありハ吾妻鏡の兼元三年三月のつゝ

の条三代實録の元慶元年八月の記も又 修正の法と行りてありハ吾妻鏡の兼元三年三月のつゝ

又より 神儀の古儀あり 同日政所廳舎お本木の神殿と建十二日戌刻初夜のお儀一神主神事

神主政所へつゝ神儀と廻り難子の料理の器を懸りて同夜子刻政所へて祭の神儀とつゝ使

神主祝詞あり同日祝言神主よりありて神主神儀神事にお仕大宮大座敷神主の必事と

恐勿請り白杖お神儀連帯刀大鳴神事 右祝言と倍儀難負捕かある神先達の初夜とつゝあり

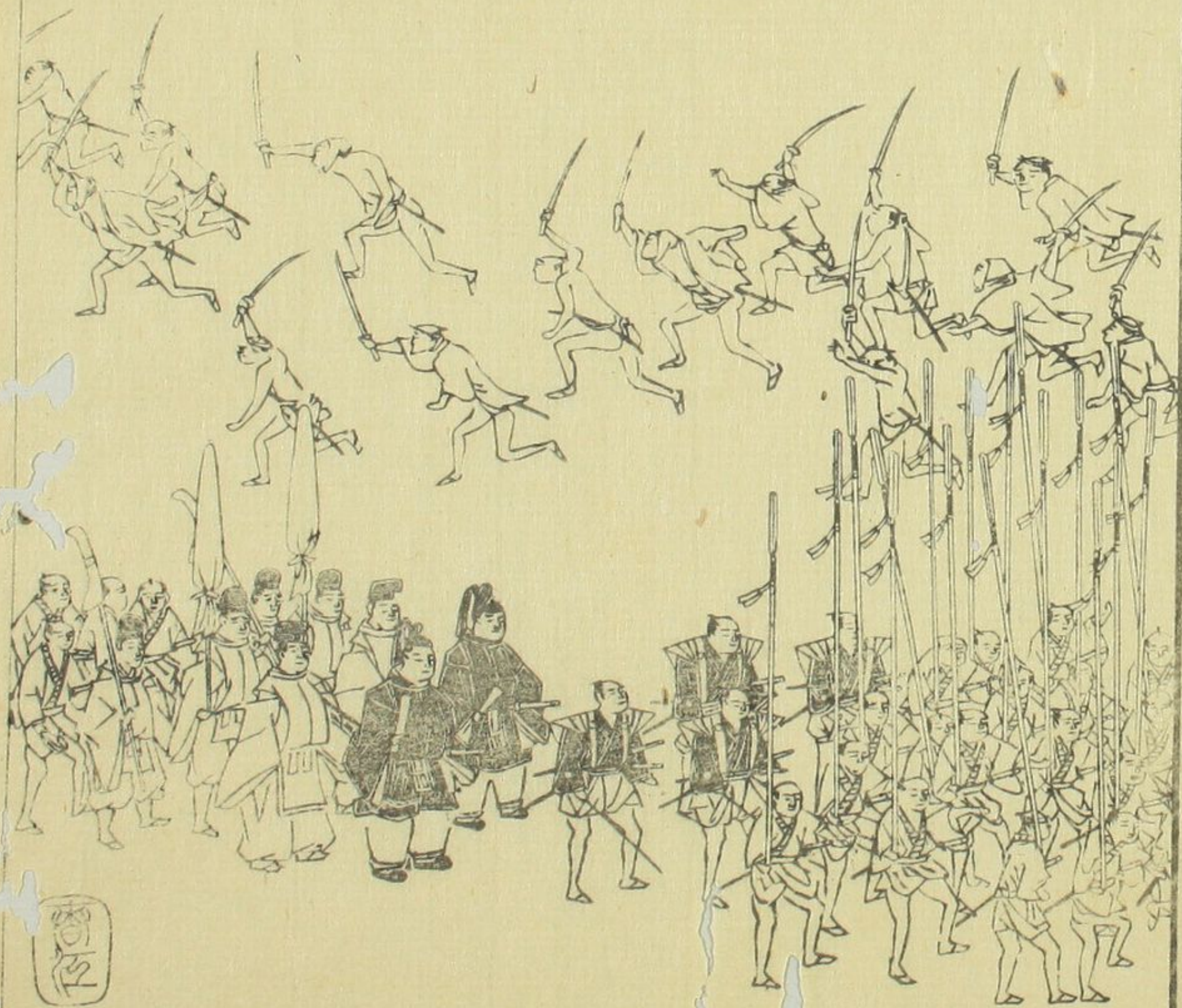
同日辰刻 國君より神名代お宮あり午刻 難負捕かある神事の中は長刀の鞘とつゝ

同日辰刻と從者お持也捕人と引連帯一統神儀お折ひお向するに先務つゝおつゝ首途の儀は

先ゆくお向を神儀お折ひお向するに先務つゝおつゝ首途の儀は 難負人 古く行儀の神人と稱するやうに

政所へお仕神儀の吉祥天女の儀と倍奉り政所お居の神儀お折ひお向するに先務つゝおつゝ首途の儀は





奇



難追捕神事

街のま

りやう

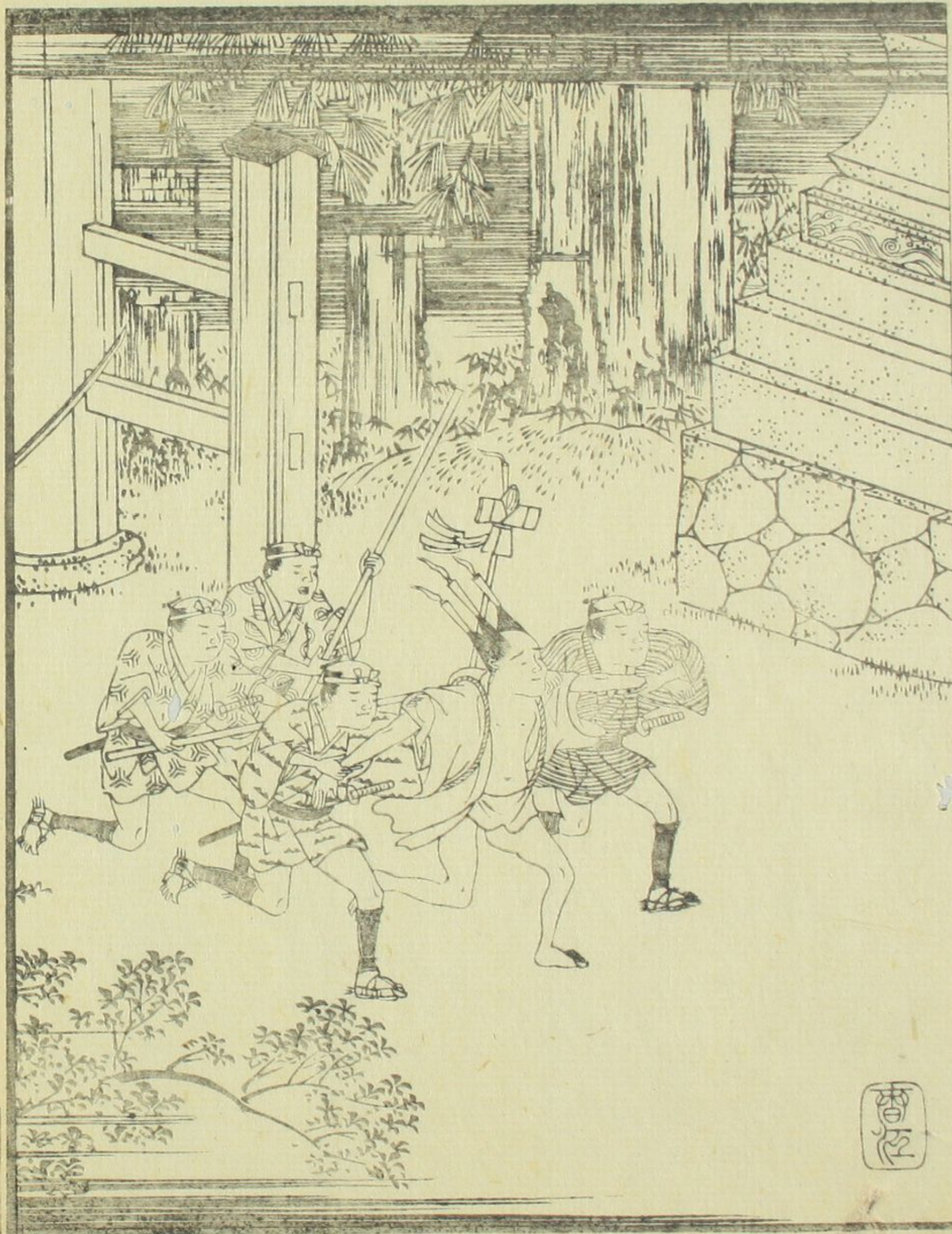
難追風

文草





夜  
儺  
退  
の  
神  
事



香

形天神と志保より新撰姓氏録に宗形君大國主命六世孫吾田片  
隅命之後也とありやく彼氏人が祖神と祀りし社号と云

大御靈神社 曰く別宮とて御玉社と申次延喜神名式小中島郡大御  
靈神社本國帳小從一位大御靈名神と云より多休ハ大國御靈  
神と八重事代主命と合せせ給也

舊事紀曰大歲神妻伊奴姬生兒大國御靈神  
文德實錄曰仁壽三年丁卯以尾張國大御靈神列於官社

國府宮 國府宮 田新川 祝有八傳祭  
祥雲五色擁雕甍入廟齋心已覺清尸祝  
典士風從古進儼名歲深宮外長杉合畫  
鳥鳴庠序遠既何處是遙思學士賦詩情

久し我杖はふる海のひかりは現代のまき 信景

夏とてと 清れきけりや 玉府の宮 霽川

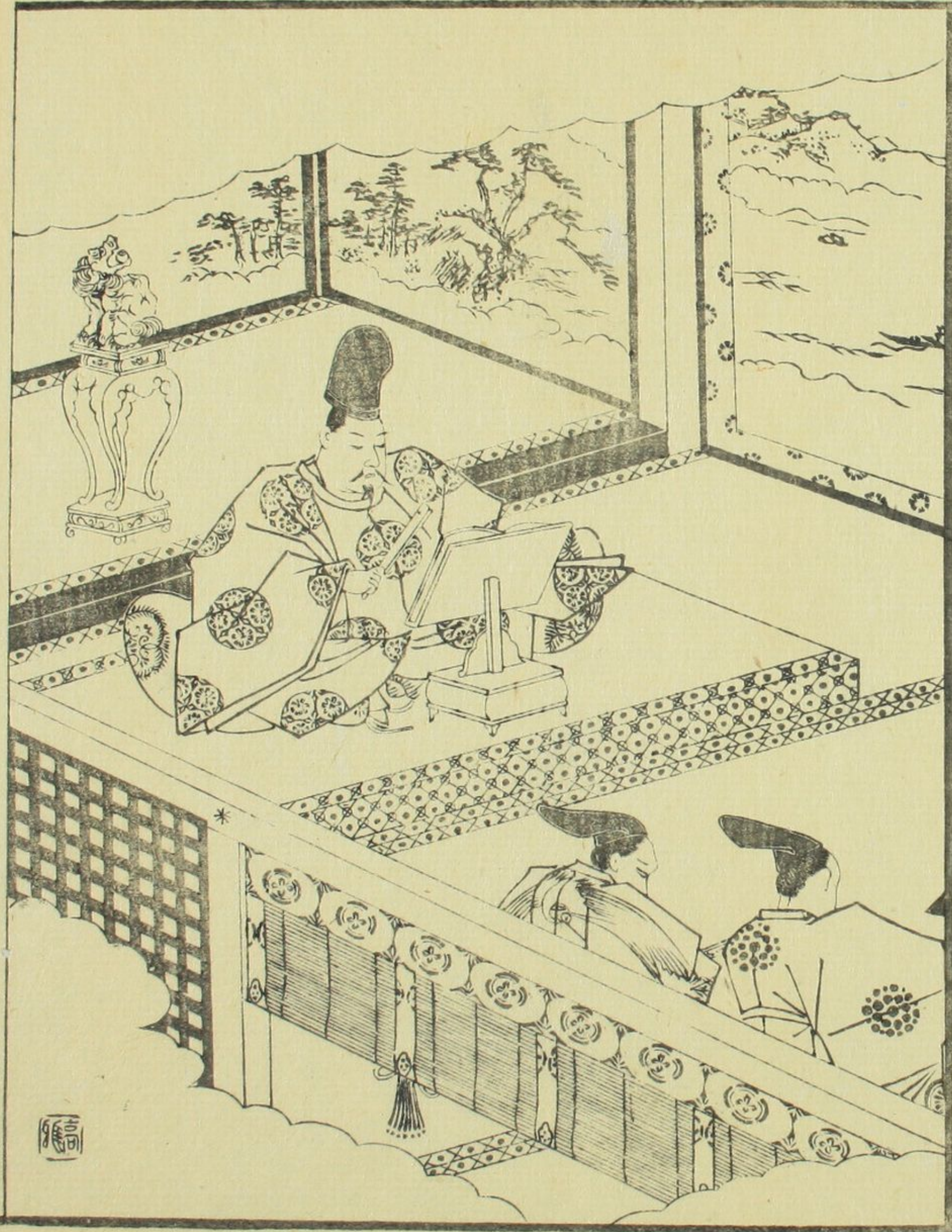
國衙廳館跡 松下村あり今 往古郡縣治政の御世ハ諸國にも國府の館  
舎わけて守助掾目史生等の友人系都よりわけて官舎小居て國中

の政務と行ひし日本書紀の 天武天皇元年の条に尾張國司守  
小子部連鉏鈎二万の軍兵と卒て 天皇の御軍小加つて

甲午多治比真人水守為尾張守と續日本紀小治政よりあつた  
大中臣朝臣清磨滋野朝臣貞王等と云り四五年その任限りて交  
替せし數百人の姓名ハ清書小見たり中にも大江匡衡朝臣任國の

時温厚の政と行つたりと其のり頼朝公平氏と討て世と  
治つれは文治の末諸玉の武家の守護地と置り國司の威  
權衰へし空官のめり多て政事と取らるる官廳小  
居りもせして彼今も廢り古跡とありたり

學校跡 國廳の跡と云地殊小廣く學校の地も其うらみえられど今  
其地定り多し 佐尻小或向住年國志のありて 吾子中島郡松下村國衙畠と改て尾張  
衙を改し時ハ昔日國司の廳多事明らか 廳の地古往學校ありしハ 陽成紀ハ  
紀伊國司言八月二十六日亥時風雨晦暝電激發震於國府廳中及學校并倉屋破と云り



國衙學校  
大江匡衡講  
書の圖



匡衡朝臣、和漢の大文、て文、朝  
野群載、本朝文粹、詩、新撰朗詠  
集、和分、後拾遺集、續古今集、新  
續古今集、中古、哥仙、新百人一首  
等、凡、見、より、自撰、する、所の  
書、江吏部集、大江匡衡  
家集、水、り、る

て見れば昔國府に學校と云ふ一處の地ありて其地を以て予此處と云ふを呼ばず  
 のやうに仁明紀に其地見えて其後一人の博士數に爲て教へて諸生發達の計と云ふ  
 やうに又每州博士と云ふも史に於て見れば其地も亦く主上も存下も併ての事と云ふ人倫  
 と他の事にてせしむるも學校も殆ど況や保元以後に於て之を以て其地を以て其地と云ふ  
 と云ふ人もあり

大江匡衡朝臣の尾張守と時字館院と菅

江吏部集小見

栗原信光が柳菴隨筆小行古國毎小學校ありと七徑孟子考  
 文和に之も國學の事ハ令中も見ればねばいふ所ありて其地を以て其地と云ふ  
 と菅公の進みし所尾州の州廟ハ大江匡衡が進まし所とす由を以て其地を以て其地と云ふ  
 定し其地を以て其地と云ふ

冬日於州廟賦詩付小序  
 夫詩者群德之祖萬福之宗也動天地感鬼神莫  
 先於詩焉是以率一兩門生於學校院邊聊命筆  
 覲於戲侍讀未必速更我再任蘆葦早濕之地分  
 憂未必翰林我初展風月宴遊之筵昔西曹始祖  
 菅京兆行縣邑以作風土記今東曹末儒江侍郎  
 思鄉貢以興儒學校院其詞曰  
 明時侍讀一愚儒再得尾州行使符長保春風初促  
 駕寬弘冬雪更迷途割雞唯愧裝雲劍折蜂只慙合  
 浦珠浴下親朋莫拋我欲填月稅與花租  
 西曹東曹菅家江家と云ふ是同祖の所なり菅京兆ハ左京亮清公朝臣あり尾張介あり  
 時風土記と作らるる也菅京兆ハ尾州記とあり風土記のよりなり  
 江侍郎ハ匡衡自身の事なりと云ふ學校院と典次とありて其地を以て其地と云ふ  
 長保寬弘ハ匡衡尾張守初任再任の年号なりハ外同集ハ小集の作事なりハ今云ふ事  
 早夏諸客賀予再兼翰林不堪情感聊賦一絶  
 付小序

予今年正月拜尾州刺史三月兼翰林主人蓋聖  
 上好文賢相重士之所致也於是賀州源刺史青  
 官皆學士狂華軒輿門生四五輩來賀思之深也  
 聊以孟酌答謝厚意昔山陰曲水之會右軍自作  
 序自書今洛陽翰林之亭主人亦自記事自詠其  
 久陪蘭省東方朔再入翰林白樂天不耻烹鮮爲少  
 吏只歡勸醉前賢  
 有以詩題壁近日始鷹揚投竿呂望衡新  
 詔任邊州猶鶴退今鄉侍讀何居東海外翰林宜在  
 城傍衣錦買臣到故鄉去我思朝事帝王  
 左丞相莫尊閣賀帶三官恩賜詩曰侍讀皇恩歲  
 歲新尾州再作撫民人桓榮昔者猶應劣李部  
 翰林任人頻巨衡跪讀瓊篇不知手之舞足之  
 蹈情感難抑敢抽鄙懷本願  
 三官如舊賞心新更賜御衣異衆人賢相人投金玉  
 韻老儒不耐荷恩類  
 補陀山觀音寺  
 同村ありて今臺深天沐と云ふ本國帳の  
 從三位修理若御子天神とあり古社あり  
 同村ありて今臺深天沐と云ふ本國帳の  
 從三位修理若御子天神とあり古社あり  
 陀の像と安を以て像の内ハ元久某の年の言なりと云ふ若山門の赤ちして堂儀も云ふ  
 吉野の光るの清けりや清拙大澄祥沙中興の祖と云ふき建のりあり若



禪源寺  
 伊奈波神社  
 金神社

隆虎子享保  
 三年戊戌十月  
 琉使東行西の  
 時尾西金花山に  
 傍詩と作りて  
 越来王子の傍  
 不謂我山簇錦  
 鞍風光此日与

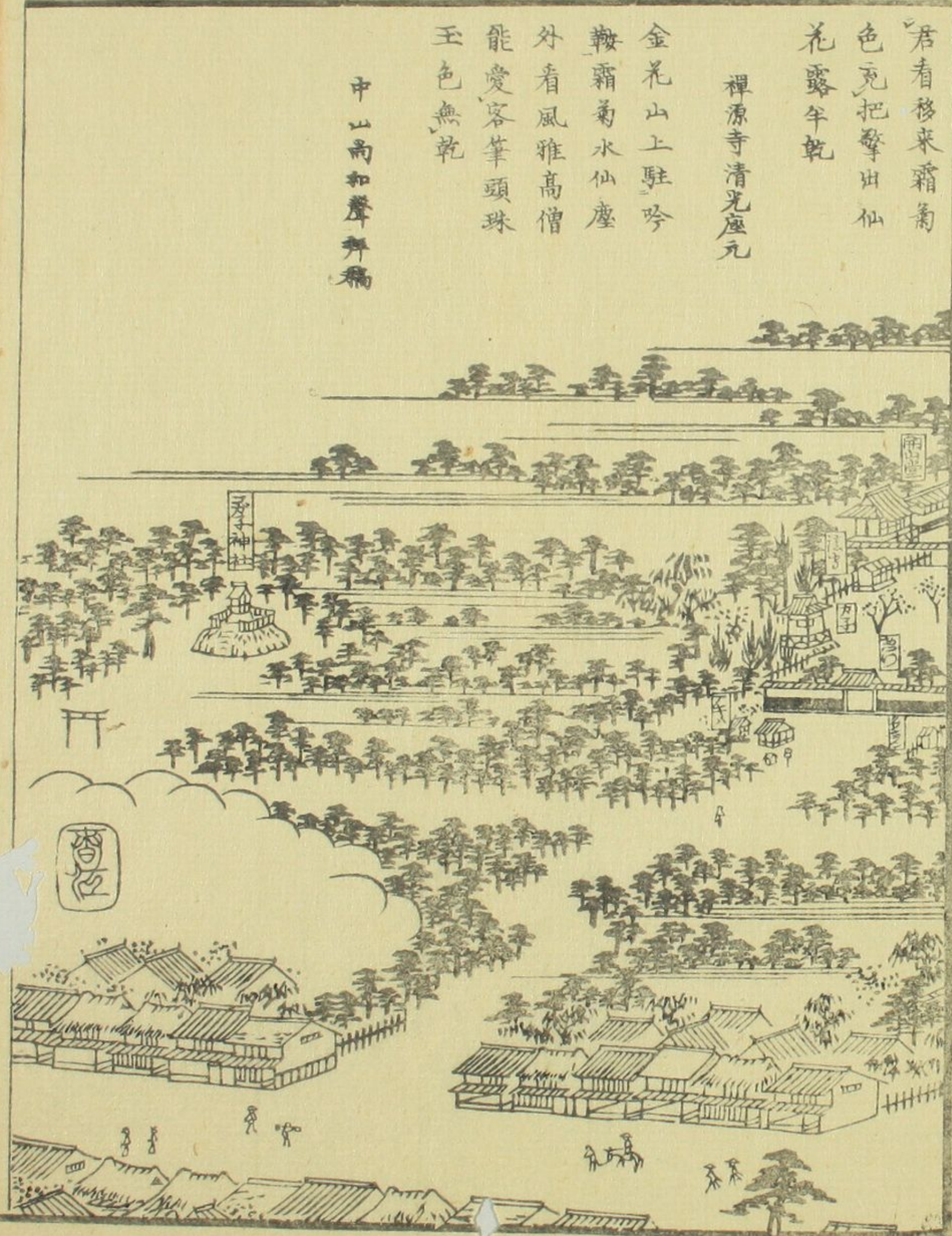


君看移来霜菊  
 色死把擎出仙  
 花露半乾

禪源寺清光座元

金花山上駐吟  
 鞍霜菊水仙座  
 外看風雅高僧  
 能愛客筆頭珠  
 玉色無乾

中山尚和聲拜稿





中嶋村  
長隆寺  
延命寺

高碑の遺跡  
尾張風土記残缺  
中嶋郡中島  
郷と見ゆる古  
ま里なり

甲斐ヶ原  
古寺の  
佛にかきり  
色あせり  
里のうらみ子  
せ文  
甲斐子



木全又左衛門宅址

木全村及び縮島村のあり木全又左衛門忠澄其祖と善鑑とついで世に  
武勇に秀でて信長公の時美濃の堺より一揆發して尾張  
の地と據りむ郷士ニ三百人ヲ馳合とて木全流とて不意をうけて一揆  
と多く討取り世の良貴にあがり武話碑玉とて書に記して是名ちたの  
長臣薩州前記の記あり

無量山長隆寺

中島村のありて古く一宮村地蔵さまあり古雅りて古佛古堂  
おの多しなま阿波陀の大像すれて古色あり夾侍と親善あり  
ふされども大なる甚華とせし印相日月の圓々も形らわれ親善あり  
日光菩薩月光菩薩ありむらさきの燈籠あり二十五菩薩の像を安置し  
より多く教亡しては日光月光のありおの多し寺堂某所画像ハ巨勢金剛  
の筆 五大尊不動画像ハ智證大師の筆 不動画像ハ傳教大師の筆 其外唐像のありありあり

光堂橋

同村のありむらさき佛閣のありむらさき光り堂とていづかの以少廢絶しては橋  
のい喜名跡より長隆寺とていづかの國分寺の支院なりわさき高莊嚴のありむらさき  
堂もありむらさき又村内ハ護摩塚とて地名のありむらさきむらさきとて橋とせし  
跡もありむらさき古寺のまじりて沙石集の尾張國中島とていづかの道世の上人寺とて  
まじりて傍五古人止住り佛法の衣鉢なりとて傳へ其所の古木のたうらと造営のありむらさき  
よりけるに寺らむき在家人に樹神つとてけるハ我等ハは本とて家とたのむむに橋  
さく傍のありむらさきむらさき制止まむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき  
せり余所の者とむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき  
声ともむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき  
只のありむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき

中島左衛門尉宣長

同村の人なり妙長子の岡山藏宗和尚の  
又中島流人の宣長の裔孫あり東鑑曰延應元年九  
月廿一日尾張國住人中島左衛門尉宣長者義久逆乱之時為官

軍之由有沙汰被収公所領然而當時侯御所中頼依愁申之於尾藤田畠者可付渡之旨今日被仰付西郡中務丞云

斬作の里 起ぬるの村なり和名抄に中島郡石作以之とありとありの里とありとあり

河室山觀音寺 串作村ありて浄土宗龍保の曼陀羅寺未河室ハ舊地名也源三位頼政が高倉宮小啓する諸國源氏揃のころより尾張源氏河室判官

萩原驛 美濃街道の宿駅東の方稻葉宿より西の方起宿への馬継あり町のうち長く農高軒とつゝ移り賑りさ里なり

萩原川 一名古川といひ萩原宿の西と流と街道ハ板橋と架りけ川むじの木音川鷄沼川の舊流なりほ世川の瀬ありて起川と本流となれむじの流の流かき跡もるなりとあり長流の

大川うれが所くに決して派源数道跡なり 續日本紀曰神護景雲三年九月壬申尾張國言此國與美濃國堺有鷄沼川今年大水其流改道毎日侵損葉粟中島海部三郡百姓田宅又國府并國分二寺俱居下流若經年歲必致漂損望請遣解工使使開堀復其舊道許之

三代實録曰貞觀七年十二月廿七日甲戌尾張國言昔廣野河洑向美濃國曾于斯時百姓無害而頃年河口擁塞惣落此國每遭雨水動被巨害望請堀開河口令趣舊流太政官處分依請 其後ハ川普清あり美濃ハ各勢郡の人とハ中島郡の人と爭論出來つひハ刃傷及ひ殺十人死傷せり孝三代美濃の足より其文

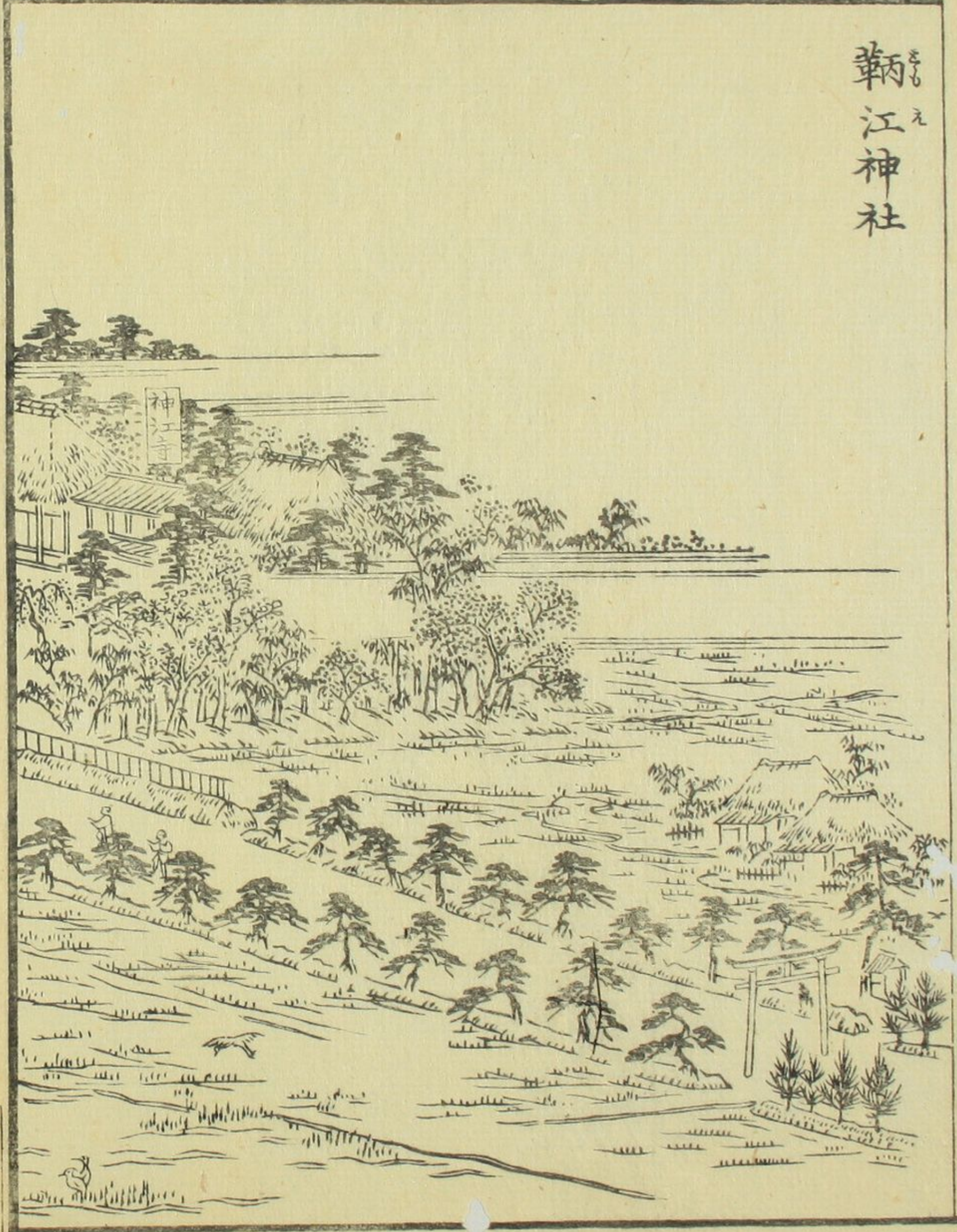
吉藤里 右後村と 尾張風土記殘缺小吉藤山出脩竹等杉栢松等鹿兔多頂上有池号吉藤池昔在神號三段之荒玉築社於此池中每秋供犧以人當時絶亦社之在可滅焉とあり今ハ鹿兔あど

の位ハ山もろくろりて松林などの廣くむじの山此面彩ハ跡なり又村の南此方に山中へ了地の跡もるも風土記の説もろく合へり

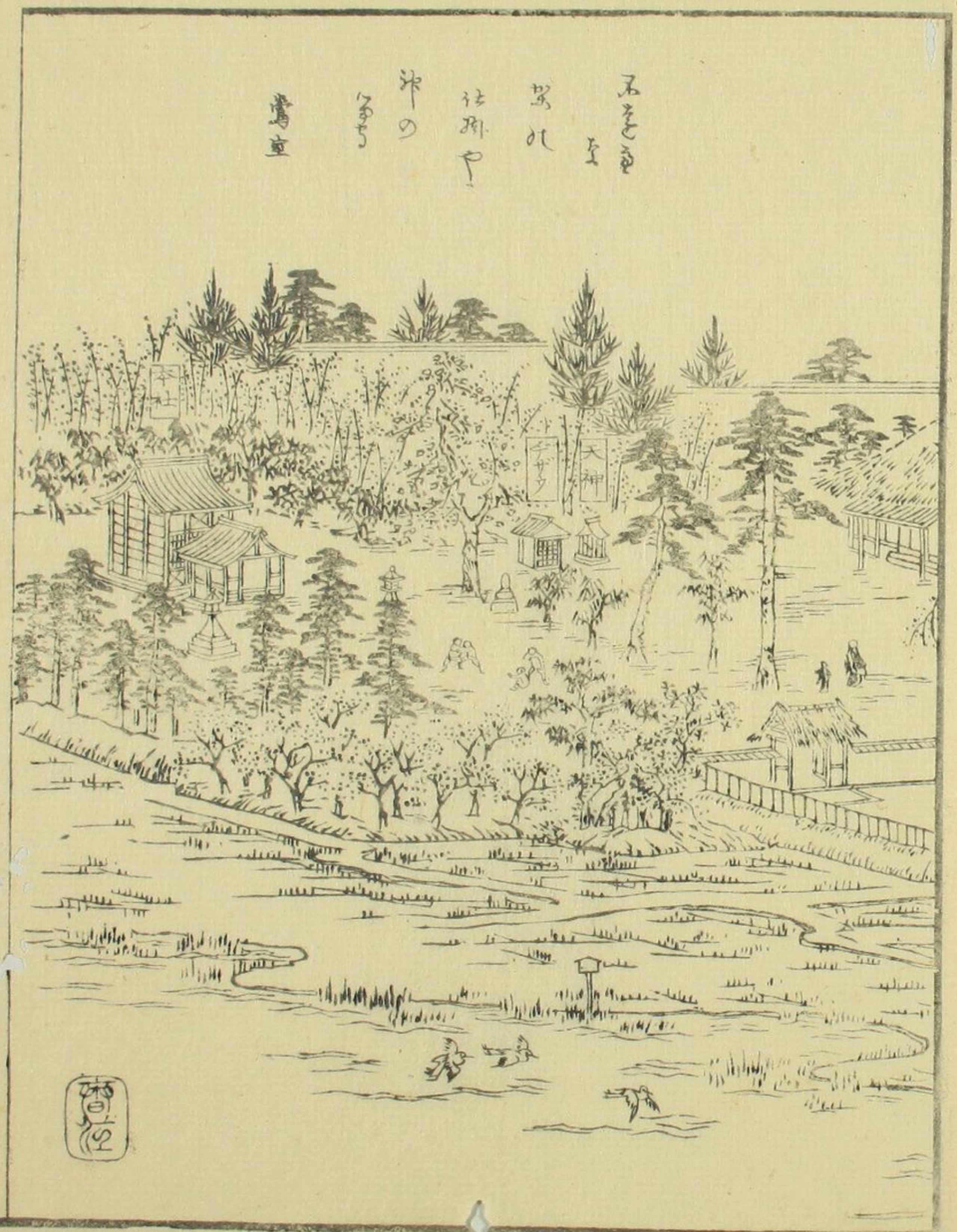
三三三の荒玉の社ハ池も今にありて玉江とあり

王江御厨舊地 吉後村にあり神風抄ハ尾張國玉江御厨とあり今神江とありとも江も移りあり文和三年四月廿三日熱田御神領日録ハ中島郡玉

韮江神社



不毛の  
里  
社  
の  
鳥



江莊田畠十四町四段  
三十歩云々云々

江神社 目村あり 延喜神名式小中島郡韮江神社本國帳小徒一徳韮

江名神と云ふなり今神江明神と称す 名勝志小徒昔神口皇宮三韓退治の後清國小放生池を置

青蓮山神江寺として昔田家三國村に眼寺

社僧 末之古傳に文明十八年の建寺云々云々

名産生姜 阿古井村あり由次形大ま味化産の及所あり一村落く作りて下の田井の所

村よりモヤレとしてふるまの辰

聖徳寺舊地 富田村あり名を在七間所の聖徳寺此地あり

聖徳寺と云ふなり 聖徳寺易地の後傍系立其地と云り

信長記小曰信長卿の行跡 平手中勢が諫書と云

近頃にかきまらりしが

富後山城守が家の子ども山城守の前して信長卿大嗚呼の人々

ゆし連くナありるに或時道云 祝儀 信長公嫁娶の儀 見泰みぐ善悪

とごころ見むり小四月下旬富田の寺内聖徳寺まで出りし間

浄慶寺



日のうちらふ  
あけけけ  
あけけけ  
英齋

齋

上総介殿も沛出りり本意たゞ一対面ありり越され  
 々々信長卿左右う約わ無して沛出り山城守悦び彼町未  
 の民屋小忍び居て上総介殿の来意より振舞と足ふ其日の出  
 立髪髪の結結やうきげ物腰掛の類の物明衣今又浴衣の体常より遙小越  
 て異體異體より沛供の人々健健うる者千五百人沛先より三間  
 半柄の朱鎗朱鎗五百本弓鎗炮五百挺為持寄宿の寺一御着わつ  
 て爰爰於て有べき式のおまおまのおませりひせりひれれがが髪髪とゆゆははかかままと  
く結をきせを彼と  
 召召ささるる皆人皆人有有ままままままののままややううににぞぞちちあありりるるかかつつてて沛沛とと承承令令  
 事終りたれば又頓頓て可有御出御出と沛立りり道三も萩原の渡り  
 ままでで見見送送りりけけるる長長ささ途途ととたたまま立立てて帰帰ららははとと々々とと足足をを與與ささりり敵  
 少くゆりける猪子兵助道三の前小近寄アと上総介殿何とつ争  
 とと嗚呼嗚呼の人人少少くくと山城守にゆけと道三の答答ふふれば無念  
 うる幸幸は我等が子供彼をとの者が門外小馬とほほまままままま

葉のうらうらとソヒソヒががままままままて其ゆ一人の目目ささややどどおおをを流流  
 物物いいあありりりり

起驛おきいり

美濃路の宿駅東の方萩系萩系宿より、系の方矢流矢流小善小善僕僕名一  
 の馬馬継継ううりり南南の方富田村より町屋町屋をくくうらつて小橋店小橋店茶茶店店ホ  
 ううふふくくくく世世來來のの旅旅人人ををああららりりううくく旅旅りりここ驛驛へへ  
尾張風土記殘 缺に海部郡

尾越山出茨苔山椒拵拵授等有名桂樹取之工家用工家用莖莖之類之類云々今今郡郡たたびびりり且且尾越山  
 ととののささややののままももううびびりり八丈八丈嶺嶺とと富田富田よりより織織ぬぬ朝朝貢貢ふふもも又又清清ふふももああららりり  
 庭訓往來に尾張ハ丈とわ名産うる富村を也にハ丈氏と稱す家ハむの織工の商  
 孫孫うう村村多多とと繪繪をを起起ここひひりりのの名名妙妙のの里里のの名名ううとと

謂謂此此兼兼起里詩 平巖仙桂  
 驛馬駿々駿々陟長野吾人會集會集譚茅舍譚茅舍記得記得徒來小里

秋あきののああららりりととああららりり中ちゆう意いののああららりり田中道磨

玄曆十四年甲申三月朝鮮人來聘の沛起沛起止宿の日富府富府松谷滄洲二百韻の詩と作て  
 故地の草草士士南南秋秋月月小小踏踏りりをを秋秋月月日日二百韻の詩二百韻の詩とと作作てて  
 くと作ん急急辛辛ととてていまいま終終観観事事りりのの後後況況やや和和すするるやや短短篇篇ととりりてていいふふゆゆんん  
 とて彼二百韻全篇と聞聞一前後を添添ひひて二十字と抄抄かか一前前ののままをを添添ひひて危危人人會會ととままじじ若若と  
 下下ののちち且且今今且且今今一即即事事とと據據てて滄滄洲洲ののままにに滄滄洲洲又又秋秋月月のの歌歌とと序序上上のの和和をを秋秋月月奇奇と  
 手手ままとといいてて驚驚嘆嘆すす一河梁雅契に詳詳ううららううてて長長にに詩詩とと略略決決

起 川

村の西より本多川といふ水源本多の谷良井証の春居味又御嶽の麓より御嶽に  
老多浦まで今五十里の長流ありて川中廣く水皆急なりてりとも、春海の川に船は  
てむ故流るるく公私の商人往来 將軍御上治の節に朝鮮人來朝の時、舟楫より  
才幾百艘の舟を横に並べて大綱及び大濠ありてつらぎ其上に板を敷いて陸地と  
似せ大造るるまじむの依せの御嶽にさきも、故今の世の名をとくも、國中神通川の  
橋より、舟楫より、秋の舟は、舟一の世記といふべし佳境遊覧曰 大樹御上治之時懸  
此川也朝鮮人來朝又船有此舟二百五十艘為舟楫舟舟間三尺餘用大銀鑄鑿合  
布板於其上云云

翠鳴館詩集

暮渡 于越水 鴻雁悲 數声正 繩離 鄉意 既傷 遊子情  
行々 且 願望 兩晴 尾州城

かよはせたり家かきつるのふかしの秋にやうけおとさるるくつていそぎをりける  
河也五月といふれとよりてあき川のやうなれ

法衣

法衣 川の月の夜  
月夜 川の月  
月夜 川の月

中山之道	三野之陸	有水名曰	伏水龍公	美譚併書
渺乎如練	不辨渚涯	絡繹行客	自彼岨漢	
宅山之石	作燈一基	載削載磨	舟楫以濟	
日便徠往	爛兮耿兮	冀斯通津	俾人弗迷	
舒哉惠光	長亾滅期	明和庚寅夏	日	

萬松山頓聽寺

義重の画に  
義重の画に  
義重の画に  
義重の画に  
義重の画に  
義重の画に

權現社

同村あり里民吉田某が安地の中に法苑として吉田氏祖先ハ右ノ介  
貞親も永禄年中三河吉田よりあふき、信長公小侍、其子長明、神君小  
はてて或切わり後ありて、南村小塾居すむ子孫連修して代々、國君にお福、昔  
字草刀と記さる又持現社、寛永元年の御清まて今少ありあき、あき、あき、あき

堤治神社

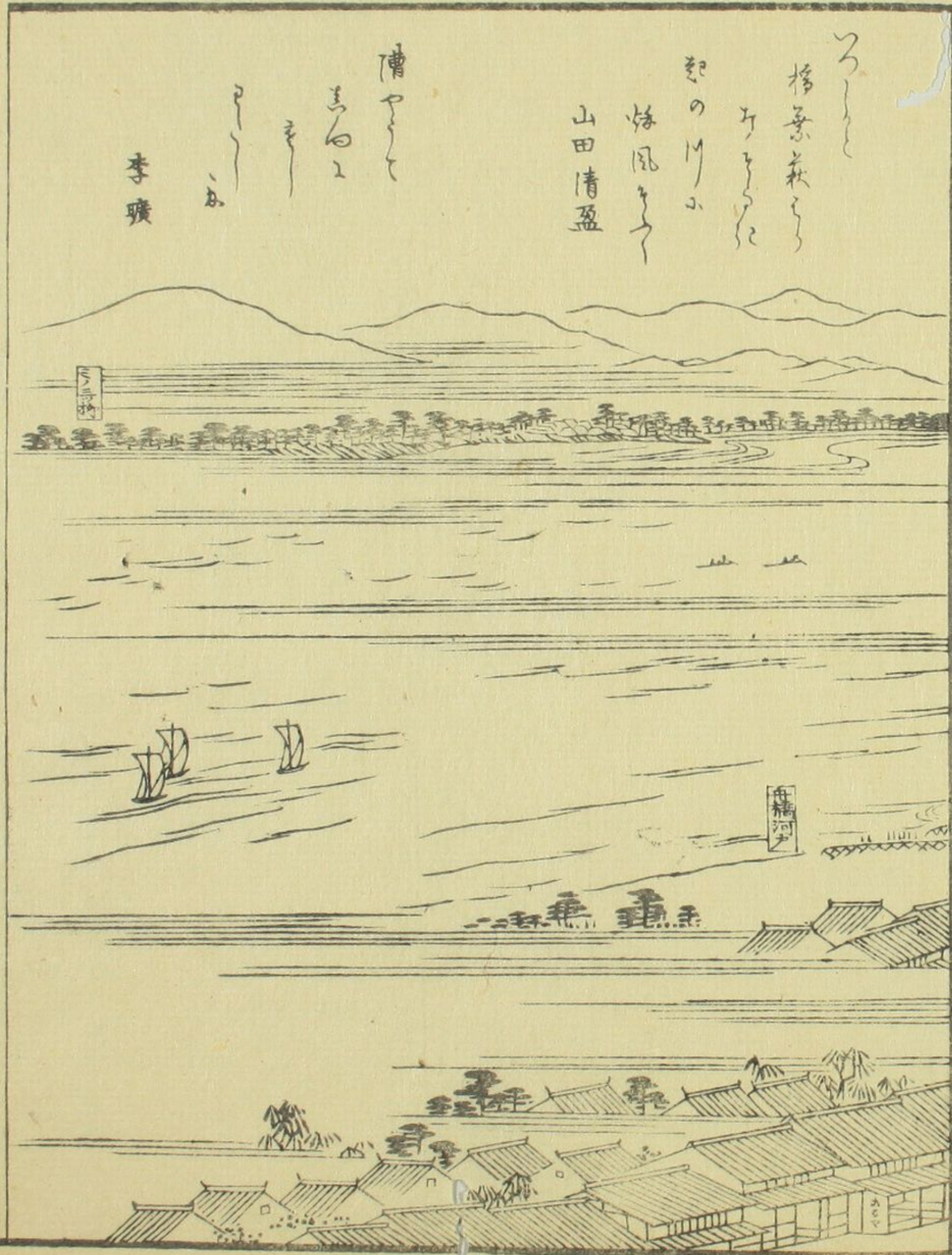
同村のうしろの傍にあり  
延喜神名式小中島郡堤治神社本國帳小從三  
位堤治天神とあり集説小續日本紀の景雲三年尾張國海部中島二  
郡大水のうしろのせも其頃堤防鎮護のうしろ小まつり、神のうしろけし小

田代内記といふ人其旧地小神明宮と勧請し、うろあ名旧号とく、うろい  
神明社といふ、むりい、うろ、あ、村の色む、伊勢の御厨の地これ

とや、あ村中島分も、神明社二町鎮座、ま、

木曾川普請陣屋跡

西五城村のうろ、ま、長十九年二月伊奈備前守木曾川通普請の  
奉行せり、あ、村と小信村とのちに陣屋と記し、其事、



李曠

あ

ま

備

山田清盈

海風

起の川

り

橋

り

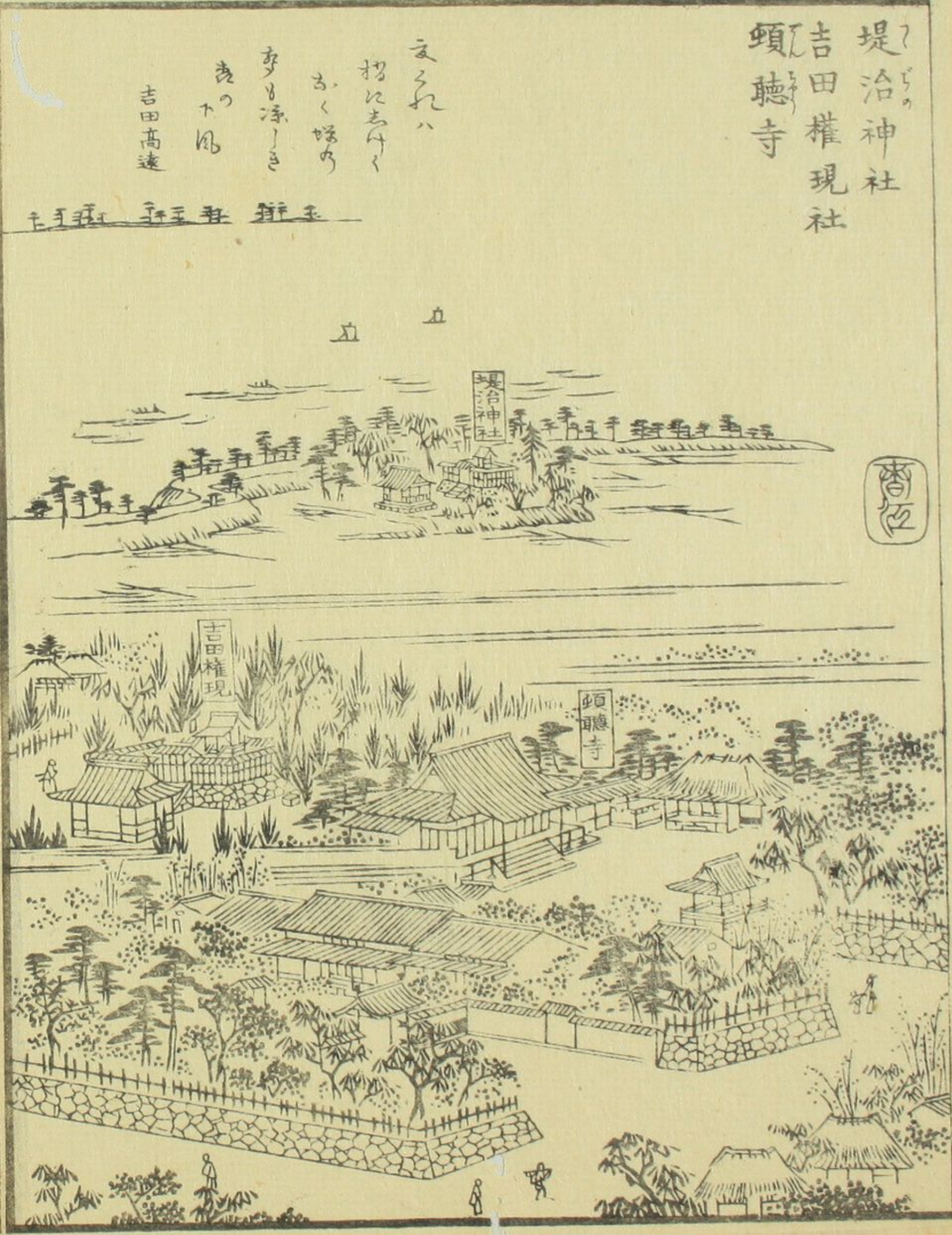


起川

香

山晴春渡白鷗  
 飛绿水浴映  
 錦衣時望紫烟  
 紫風關更徵尾  
 越早逢歸  
 中山蔡邦錦

堤治神社  
吉田権現社  
頓聴寺



まろれハ  
おにまけ  
ふくぼり  
あもほり  
あつ  
吉田高遠

この彼陣屋とならひて一向宗東派信行寺と  
造ませりあちい名を聖徳寺の末まうり

大塚山灌頂院性海寺

大塚村にあり真言宗本末系部 仁和寺の禪定院  
兼帯の院家として七種の色衣を着服す綱代典朱傘

寺許免許ありてあふ  
一宗の寺勢あり  
あちい弘仁年中弘法大師熱田大神宮へ来  
泊の折々此地と過らとける小威容嚴然たる老翁一人出来  
り大師小達ひて告げり尊師りて勝地と索り真言祕密の  
道場と管構して衆生と海度せん志しわらりと我らと知と  
りたわらん此地に勝地所なりとやく精舎と管に給ひ  
給ひしひなりて行方去りせぬりて大師老翁のよ  
りてあちを創建し自ら愛深明王の像と彫りて金堂に安  
置し又鑰像の大聖歡喜天と鑄造し大さうら塚と築きて  
其像と埋め國家鎮護の表とせしめ其塚今猶境内小なり  
村名と大塚とすもけ塚より起まり其後四百餘年の星  
霜と経て堂宇衰廢小及びいと建長年中尚那の領主長

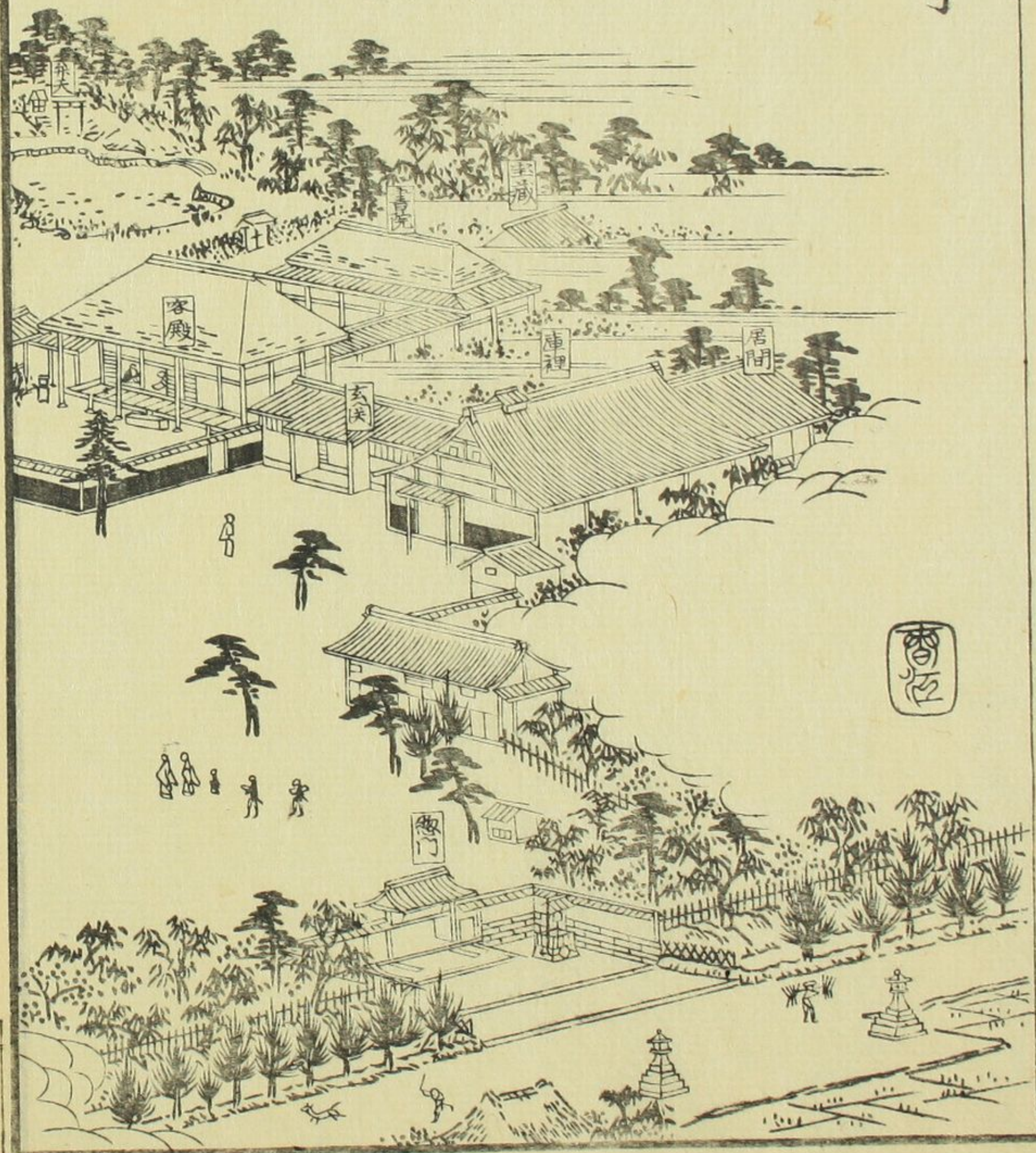


性海寺

過性海精舎

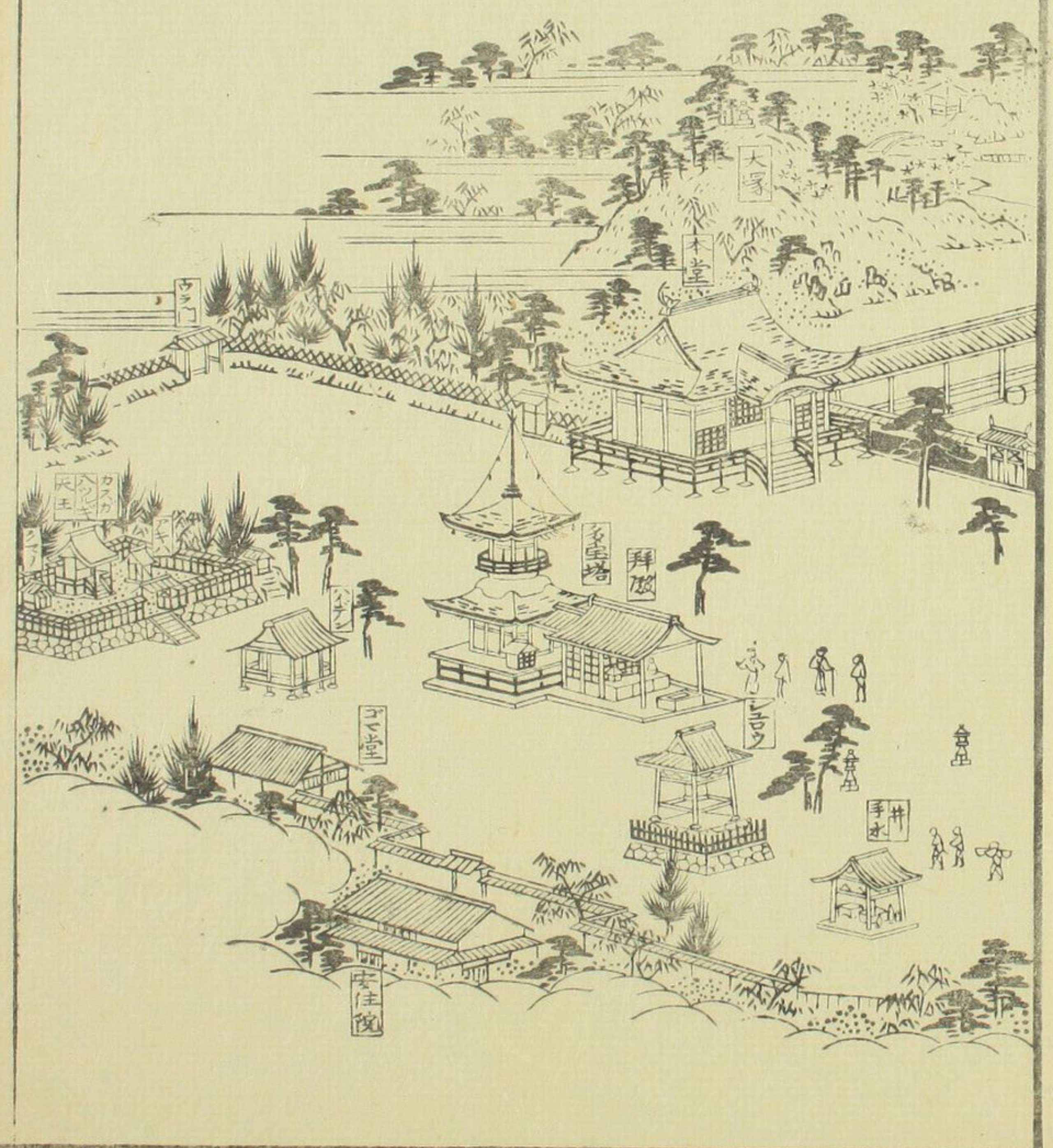
成瀬正太

祇樹蒼々、梵  
閣深常無車  
輟映門侵偶  
攀蓮社縱狂  
態猶使遠公  
同醉吟池潔  
綠蘋風疊影  
徑回俯竹晝  
或陰從君能  
聲交歡去定  
裡供園不凍  
心



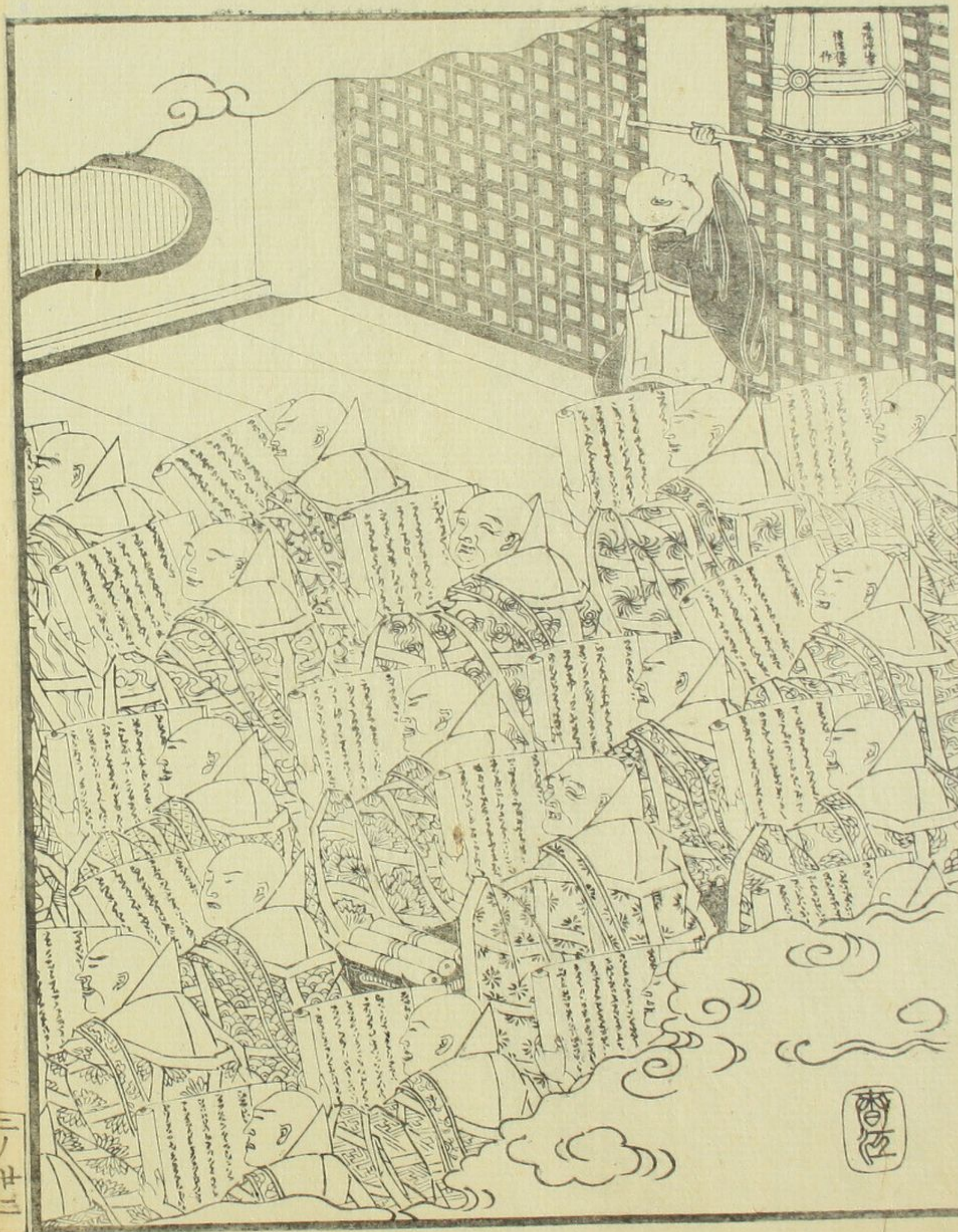
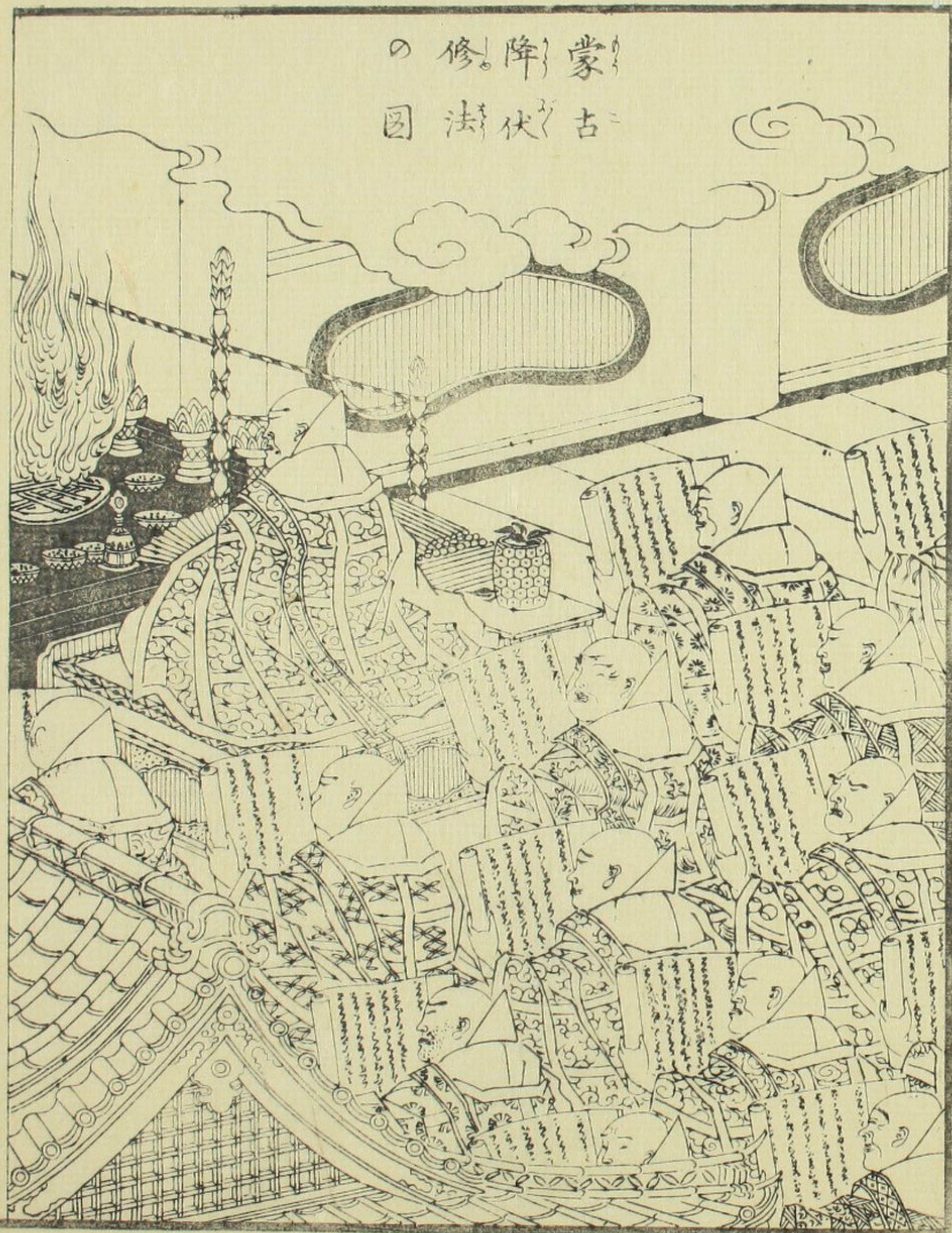
そののま春に  
わらわると小僧  
あまのりり  
うらう大砂の菜  
うしろ大湯  
いふのり樹よ  
生たてきまれ  
ふりのきまら  
ふと拜いん  
いこま

世のわ  
ゆいゆい  
まろ  
秋一日  
巻





○ 修降蒙  
圖法伏古



天文七年 豐臣吉房 證狀 文祿四年 其外 建武三年 二月の宮内大輔於  
十月九日 狀及びもて二十餘通り又弘法大師自画の像とてり不動

明王愛染明王五字塔の三幅も共小大師の筆なり其像芦二鳥

の二幅對 雪舟 畫虎二幅對 相阿 山水人物等の屏風 雲谷 水德 同 筆 花  
筆 文明十四 太鼓 明の裏に永正十四年丁丑極月十三日張之儀主 異賊降伏の半

鐘 銘文ハ有りて四句の矢わり信濃縁因次作と云ふ由有るハカシの 性海双圓  
鐘の版に種彦あり是調伏の蓋して版より教士のをよりと云ふ 金剛力士の面

の塔 石の五輪ありて弘法大師の作り 石の面一々に種字と彫其下の石に梵字左右の  
ありて相向へと性海双圓の塔と稱し真言祕密の有りともは塔と納りの其地  
号起 性海の寺

風 吹花樹 度 祇園 満地 晴沙 有履 痕 迹 見 浮圖 標 一  
柱 曾聞長者 附三尊 冢中 靈閣 無人 識壁 上 留題 尚  
自存 掄攬 威經 知幾 卷山 僧誦 得課 履 昏

今も松の木の根もふもせれおとせしめしを神といふなり  
塚のうの根もふもせれおとせしめしを神といふなり  
大宮司李雄 植松茂岳

長谷部氏宅址

田村のりくく 皇の御子 負純 親王の苗裔 長谷部 左時 信連の庶胤  
少く代々大塚に位次原政晩年 難變して 唱叫と云ふ 次其子と長谷部政泰入道明阿  
とよ明阿の孫長又三郎持信の頃より長谷部と省さく長と家苗と云ふ 前田侯の長  
臣長九郎なる 尉連意ハ其末孫の 性海も係起及び  
長氏系圖に云ふ 唱叫 留記ハ原政の家記あり

千代氏御園

今千代村と云ふ 大神宮の御園とて千代氏恒貞と云ふ人つとさど  
所藏の延文六年三月八日の寄進狀に尾張國千代氏庄内永吉田地之事云と云ふ  
性海寺 所藏の建武四年七月の渡狀に千代と云ふ書て氏の文字と省けり

千代名神社

同村のあり 今明神社と稱本國帳の中島郡從一位  
千代名神社と云ふ 大社の衰へり

土宮大明神社

北意村にあり 生土神と云ふ 杉社に 嚴野天神と云ふ社あり 是本國帳  
小從三位 嚴野天神と云ふ 古社と云ふ 今ハ未社と云ふ

稻藁山桂林寺

七ツ木村にあり 真名古屋七ツ寺と云ふ 七寺と云ふ  
ちり 田記と云ふ 智光上人の墓と云ふ 經堂の跡も現存せり

大中臣安長塚

同村にあり 二條院の御宇 應保年中 大中臣朝臣安長 當玉の寺と云  
寺と云ふ 其人の墓と云ふ 築て香火と云ふ 鐘愛のむすめと云ふ 其善提のより 七  
長ハ古大臣清磨六代の孫 齋官助茂生の七世の孫 神祇權少祐 大中臣能善の子の  
群書類從の 大中臣  
系圖に云ふ

八面森

有松村にあり 八頭鬼と云ふ  
今ハ本村の境内と云ふ 古跡と云ふ  
性海に 中島郡有松村近  
松の數々見ゆ 森と八面の社と云ふ け所ハ八頭の鬼神位



畫院後津寺光稻所印



愛智御曹司  
八面鬼と双六と  
赤四

愛智御曹司とよみ人ひ鬼と雙六うらて勝り後鬼津の力をて  
人民と悩まけまけぬくつて人とあはむ神とつらふ崇めて  
一祠と建祀り傳へしや元村里に傳へる口牌かたにひまゝ愛  
智下総守源義成明武をこゝへ右衛門尉範成左近將監義保等  
いふ愛智御曹司と傳へり子孫もあひ有松村ふわりつていふ  
按るに 仲哀天皇の沛時多國より日本と美比とてまづ塵輪と  
つゆのとよみ其つら鬼神のめく身の色赤く頭ハッして黒  
雲にのり虚空と飛来して日本にむり人民とつらつて眼  
あへ 天皇其つらつた自ら御幸ありて十善の御位の  
らつらつて塵輪と射殺しつて 八幡愚童訓に記する八頭  
鬼の故事によりてつひ傳へる里俗の物語のふり

益田森

益田村にありむし林ありてまけの林とつひつひ傳へる赤松の  
つらつらつての林とつひつひ傳へる古社ありつひつひ傳へる大の  
院にありつひつひ傳へるの林とつひつひ傳へる真清田大明神  
ありつひつひ傳へるの林とつひつひ傳へるの林とつひつひ傳へるの林

益田山加納院

同村にありむし真言宗長野村万徳寺赤松とつひつひ傳へる大池六  
建主とつひつひ傳へるの賢却千佛名匠の交書に永正拾四天丁  
益田寺感忌大室坊書之とつひつひ傳へるの古雅あり梵刹あり

東源寺

同村にありむし東源寺とつひつひ傳へる大池とつひつひ傳へる  
の用水とつひつひ傳へる大池とつひつひ傳へる大池とつひつひ傳へる大池

馬橋

同村にありむし馬橋とつひつひ傳へるの馬橋とつひつひ傳へるの馬橋  
とつひつひ傳へるの馬橋とつひつひ傳へるの馬橋とつひつひ傳へるの馬橋

東源寺

同村にありむし東源寺とつひつひ傳へる大池とつひつひ傳へる大池  
の用水とつひつひ傳へる大池とつひつひ傳へる大池とつひつひ傳へる大池

増田右衛門尉長盛

同村にありむし長盛とつひつひ傳へるの長盛とつひつひ傳へるの長盛  
とつひつひ傳へるの長盛とつひつひ傳へるの長盛とつひつひ傳へるの長盛

中莊山無量光院満願寺

中莊村にありむし真言宗長野村万徳寺ありつひつひ傳へるの満願寺  
とつひつひ傳へるの満願寺とつひつひ傳へるの満願寺とつひつひ傳へるの満願寺

天平七年行基菩薩の開基より其後天曆四年の兵乱の堂宇  
悉く烏有となり本堂漢廣堂の妙と述仁二年沙弥行西  
再建し宇跡をより支院十二坊と名くや舊観小復せり志る  
小永祿の頃より漸く小坊廢し本堂一字と無量光院の妙  
あり其餘の堂宇は悉く古跡とせり康正二年造内裏段錢  
并國役引付の等持寺領尾張國中庄段錢のりやく足利家  
の菩提寺の領地なれ其庇陰と其領は疎小盛よりが彼世  
衰つてのらわくいなりなり○本尊 阿彌陀の大像はすれ  
樂寺南右三ヶ寺のなす三像一本を以て古雅なりむり  
國分寺の全盛より竹の古像の所に敷くもあまたに伝へり  
動明王 弘法大師作 珍羯羅制多伽 同 弘法大師像 自 不動明王 運慶 昆  
沙門 十一面觀音 師作 千手觀音 同 不動尊 珍羯羅制多伽  
三幅對 妙澤 涅槃像 一幅 裏書し奉新造涅槃像一幅奉中興滿願寺常住  
年二月十五日萱津原尼公大地主了阿彌陀佛と有りこれ則千木下長者の母已安と  
画さ入奉納し其目寺の什室に因物有り画者ハ北殿司ありといひ

五大尊 一幅 享福五年良 愛染明王 弘法大師作 辨財天 同 塑佛大日尊 同  
三尊阿彌陀像 惠心僧 都華 西界種子曼陀羅紺紙金泥 一幅 性威法印肖  
像 伊藤右京之進肖像 幅 渡唐天神 幅 活板大般若經 三箇筒裏  
年癸丑十月日宗寺華畢しあり其外は画本 塔頭 満藏  
年以てありてあるまじき人なりとありて之に癸巳五月十四日  
とて二人の友法ひたり 竹の法像の跡より ありて人も我も皆われ竹の  
里よりこの里よりとるなりとにゆりてあるまじき人なりとありて之に癸巳五月十四日  
四山東原を以てふるまはざるの跡あり 一旦大地を以てありて之に癸巳五月十四日  
竹の其名跡は竹の區の草を以てありて之に癸巳五月十四日  
まじき人なりとありて之に癸巳五月十四日  
ねとまじき人なりとありて之に癸巳五月十四日  
額つき奉りふも六八の本程三千の長舌一代の法に御禮をせし大空のひかり  
けありて無量覺悟無邊德瑞坐蓮花法界宮殿百宝莊嚴隨念現慈光所照破塵蒙院に  
をてりしとて同担行奉大士の存中具の本頼實威律師と有り古き佛像も多  
りり涅槃を徳貞治七年二月十五日萱津原尼公大地主了阿彌陀佛等附のり書せり五大尊  
享福五年大山某作の奉付して良田阿彌陀像と有り古き佛像も多  
りり 傳承せり中興伊藤右京進奉財財と有り古き佛像も多  
安立し竹の子孫今村民と有り 奉附あり各勝の大日如来を法法大  
師の聖像と有り一はとありし何れとありしに傳承せり

縣官

田村ありて古松一株あり當所の位人杉木馬介天子の玉冠及び御幣を  
と揚りて其の傍に埋りてこれを多し松一株と稱し之を是縣官と名  
づけしと云ふ者も亦ありて今も元祖天皇の御代に於て田村の土行  
東坊五郎吉近と云ふ者も亦ありて今も元祖天皇の御代に於て田村の土行  
いふ處に領し或を承りて其の末孫若民と云ふ者も亦ありて今も元祖天皇の御代に於て田村の土行  
お侍す家に先世の用ひし馬鞍一具と所稱し古製作時古雅なりと云ふなり

堀田尾張守之高

堀田村の人堀田紀氏と云ふ者元天智の四代武内宿禰の長流也  
五位上尾張守に任ぜられたり尾張守中尾張守堀田村ありて堀田と名号し其の子は五郎  
之春無國四年正月四日戰死於人形井武内宿禰の社と津島小建はこれと傳  
五郎殿社と云ふ其子竹理大夫之盛文武の才一和分とも云ふなり竹理大夫の  
ふしをたゞしむる人のちるなり代々文武の良士お侍するに實に名高きなり

大屋中三安資

大屋村の人今善居地洋うり  
安資の中原氏とて代々に伝へるなり  
東鑑曰治承五年三月十九日乙  
未尾張國住人大屋中三安資馳奏鎌倉申云去十日侍中  
藏人行  
於墨俣河与平氏合戰侍中從軍悉以滅亡平家乘勝之  
間去其所被籠熱田社訖一陣敗之上者重衡朝臣以下定近  
來欲當國在廳等多以從平氏之處安資抽忠直尤神妙之旨  
被仰含云云又曰壽永三年四月三日辛未尾張國住人大屋  
中三安資依有其功如元管領所帶刺可鎮國中狼啖之由給

御下文筑前三郎奉行之當國者悉以順平氏之處安資為和

田小太郎義盛之聶獨侯源家之間如此云云

滝川氏城跡

同村ありて今ハ初とうる滝川判部少輔の位一跡之滝川氏本分なり  
よりあふの土よりあ村及び稲並村本全村多あ郡のより新にありて  
巴富士見道記にのせる滝川右京進秀系もこのよりにありて人々多し  
小富士塚  
此の村ありて頂小持現社と傳はれ凡そ郡小折村の富士塚と云ふは  
ありて何れも芙蓉峯の形小似るなり名づて是び一戦多ありての介  
候臺の跡のありたり

大富士塚

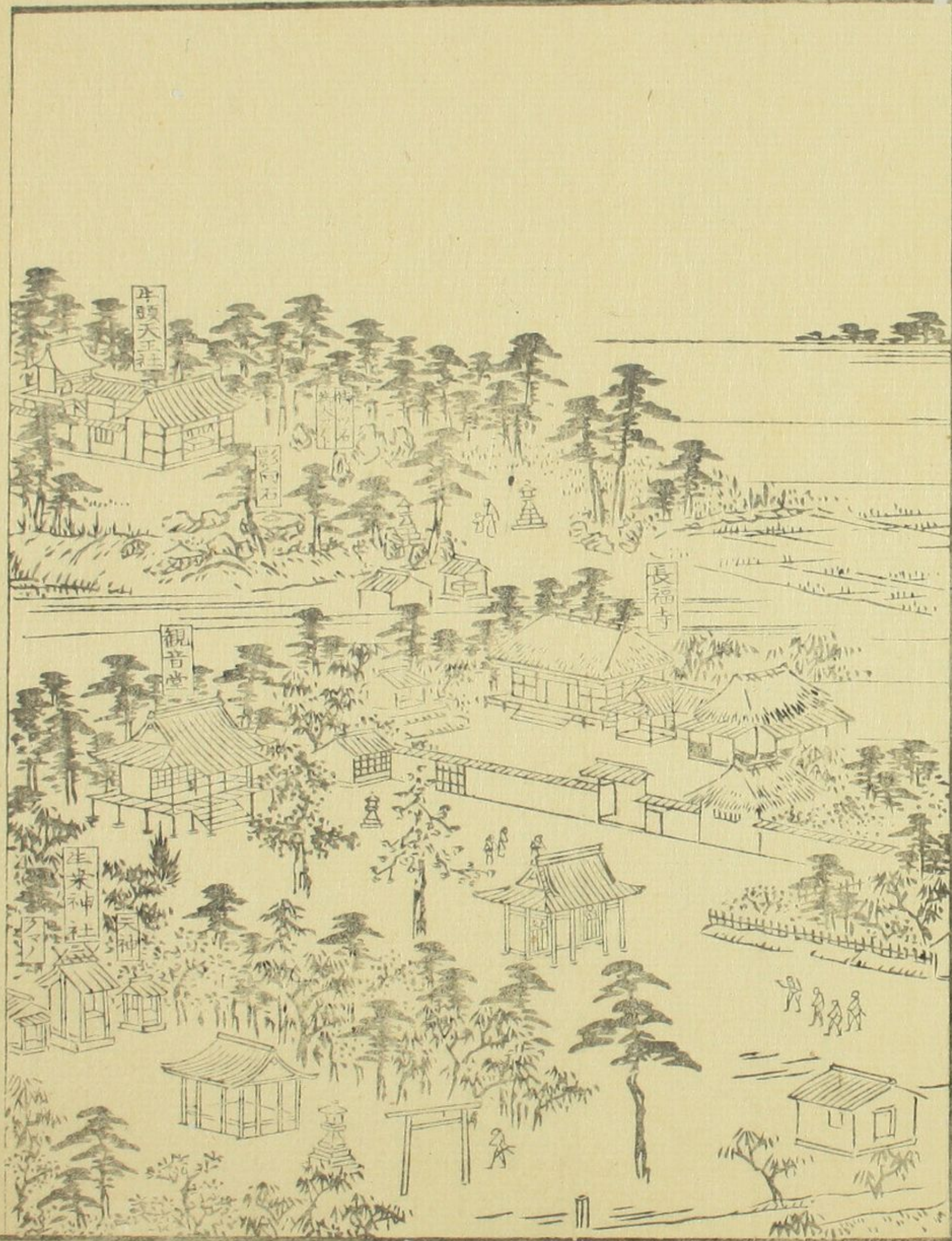
有麻徒村ありて推現社あり車隣村の小富士塚  
同ト云ふ人の墳墓なり候臺の跡あり

裳咋神社

同地村ありて延喜神名式に裳咋神社本國帳に後三位裳咋天神とあるなり  
昨臣敢臣等が祖先の神とすなり社之例祭八月十五日同村安喜寺と云ふ  
敢臣船主  
同村の人今善居地と云ふなり船主の祖父裳咋臣得磨  
其又宇奈等が一族多くは是れに居たり旧地あり續日本紀云

天應元年五月丁亥尾張國中島郡人外正八位上裳咋臣船主  
言己等与伊賀國取朝臣同祖也是以曾祖父宇奈已上皆為敢  
臣而祖父得磨庚午年籍謬從母姓為裳咋臣伏望欲蒙改正  
於是船主等八人賜姓敢臣す三代實録及類聚國史曰貞  
觀二年十月廿八日戊辰太政官論奏曰尾張國人敢臣繼吉





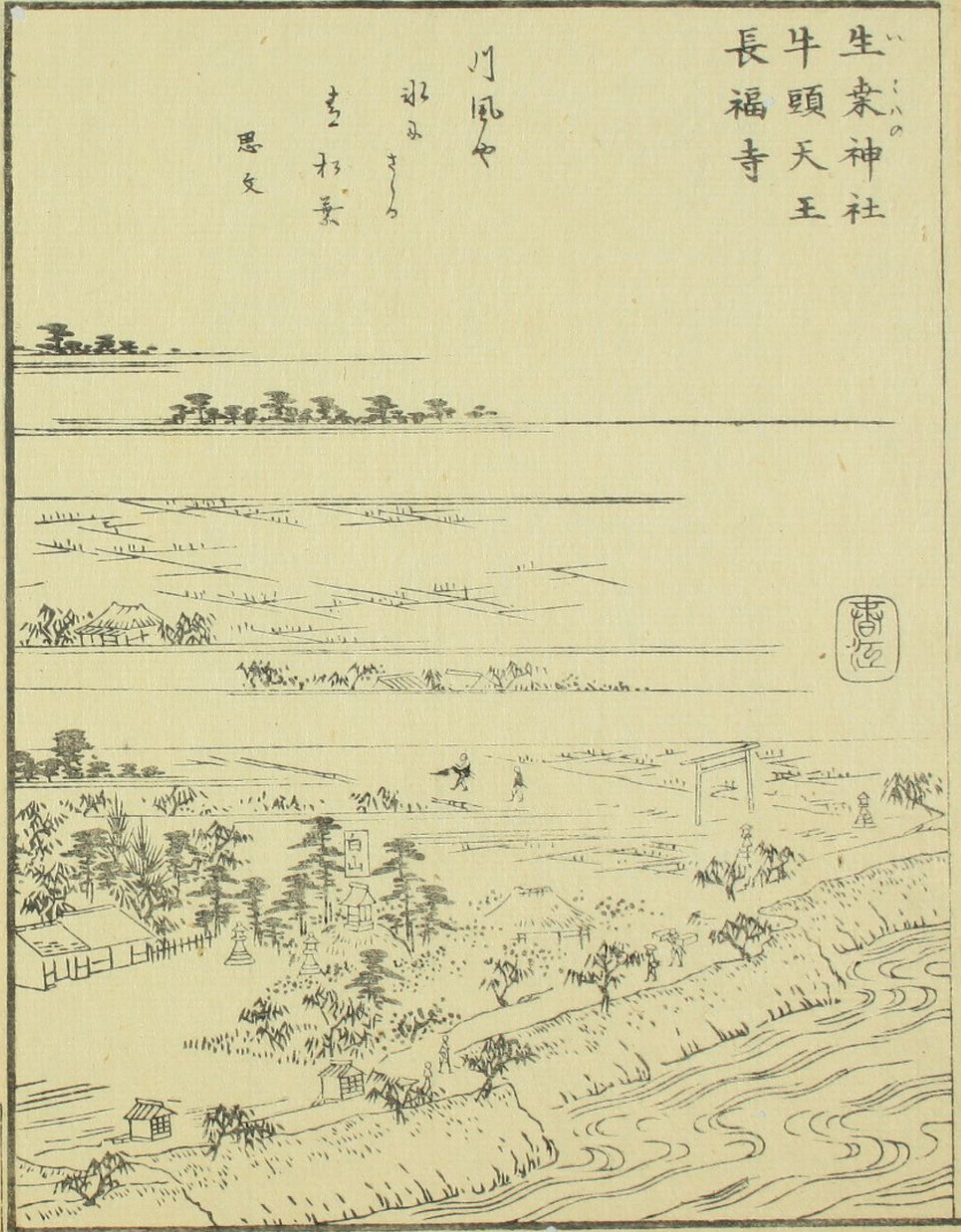
生来神社  
牛頭天王  
長福寺

川風也

水子

吉杉景

思文



敢臣宗貞等毆殺宗貞兄敢臣繼雄云云國司斷而言上法官

覆宗皆當斬誅減死一尋處之遠流

坂手神社

坂田村ありて今天神社と稱す延喜神名式の坂手神社本國帳に從三位坂手天神と云ふなり

鹽門天神社

鹽川村ありて今八幡社と稱す本國帳に從三位鹽門天神と云ふなり

紫烟山願齋寺

口村ありて系部系部系部系部とて口部係長村ありて口部

賣夫神社

八幡社と稱す延喜神名式小賣夫神社本國帳に從三位賣夫天神と云ふなり

伊香色雄命

の清子大咩布命と云ふ

屯倉舊趾

三宅村ありて和名妙小島郡三宅と云ふ

日本書紀

曰武小廣押盾天皇元年獲我大臣稻目宿禰

祢豆遺尾張連

遺尾張國屯倉之穀云云

生粟神社

東郡の境ありて生粟神社と云ふ

氏錄

小の臣建内宿祢男葛城襲津彦命之後也

今伊勢の内宮外宮と云ふ

牛頭天王社

今津島小法師牛頭天王と云ふ

元宮

地大石多さうらに三尺五寸ごり

素蓋鳥尊

の清子の跡

大悲山長福寺

同村ありて真言宗隆興寺村邊花寺と云ふ

跡

例祭云月廿六日

例祭

云月廿六日

例祭

云月廿六日

例祭

云月廿六日

例祭

云月廿六日

例祭

云月廿六日

例祭

云月廿六日

例祭

云月廿六日

例祭

云月廿六日

例祭

云月廿六日

例祭

云月廿六日

例祭

云月廿六日

例祭

云月廿六日

例祭

云月廿六日

例祭

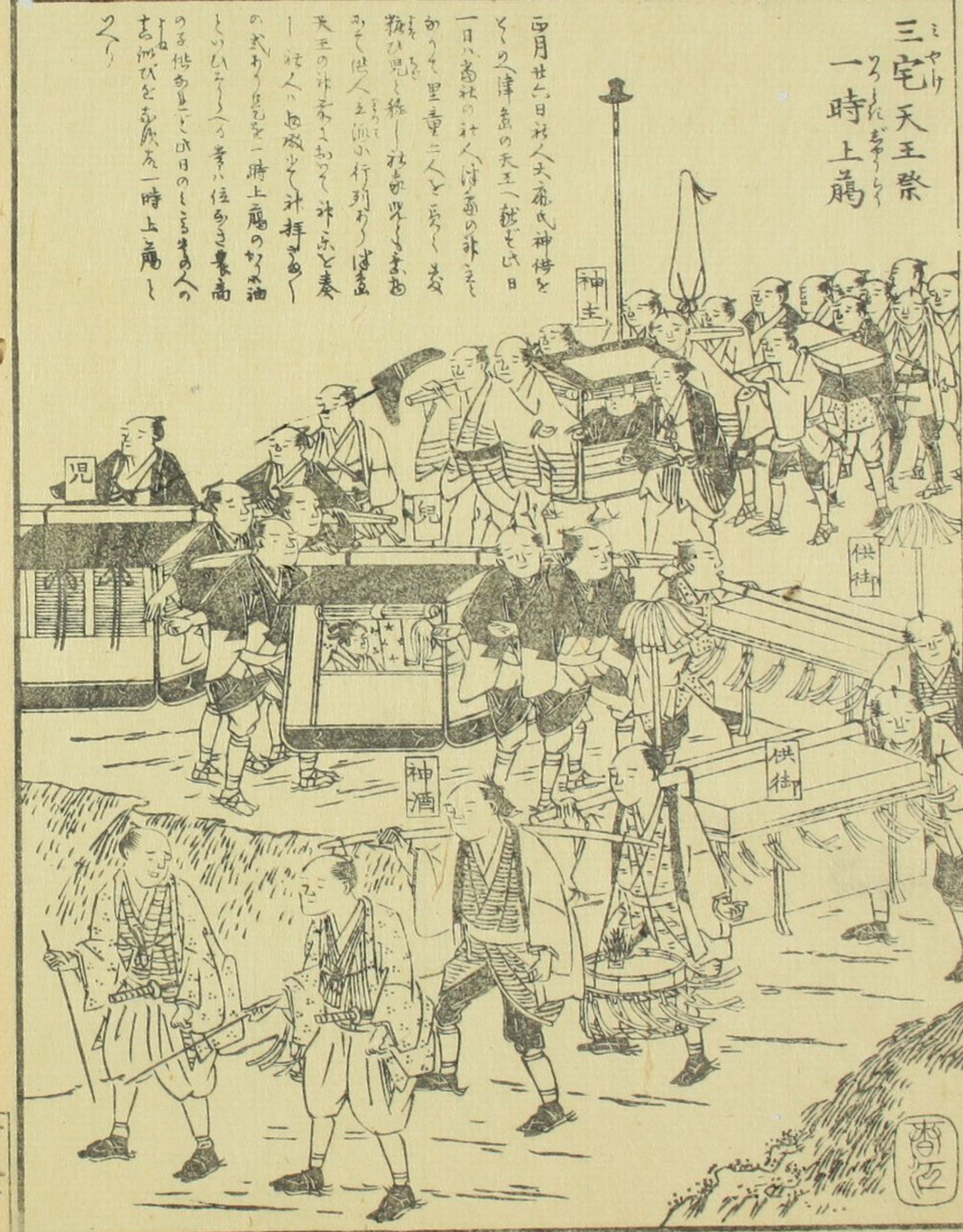
云月廿六日

例祭

云月廿六日

三宅天王祭  
一時上臈

四月廿六日社人夫、赤氏神傳と  
く、津島の天王一社といひ  
一日、高社の社人、津島の社人  
あつて、里重二人と、あつて、ま  
ねひ見と、社人、あつて、ま  
あつて、社人、あつて、ま  
天王の社人、あつて、ま  
社人、あつて、ま  
の式、あつて、ま  
あつて、ま  
あつて、ま  
あつて、ま



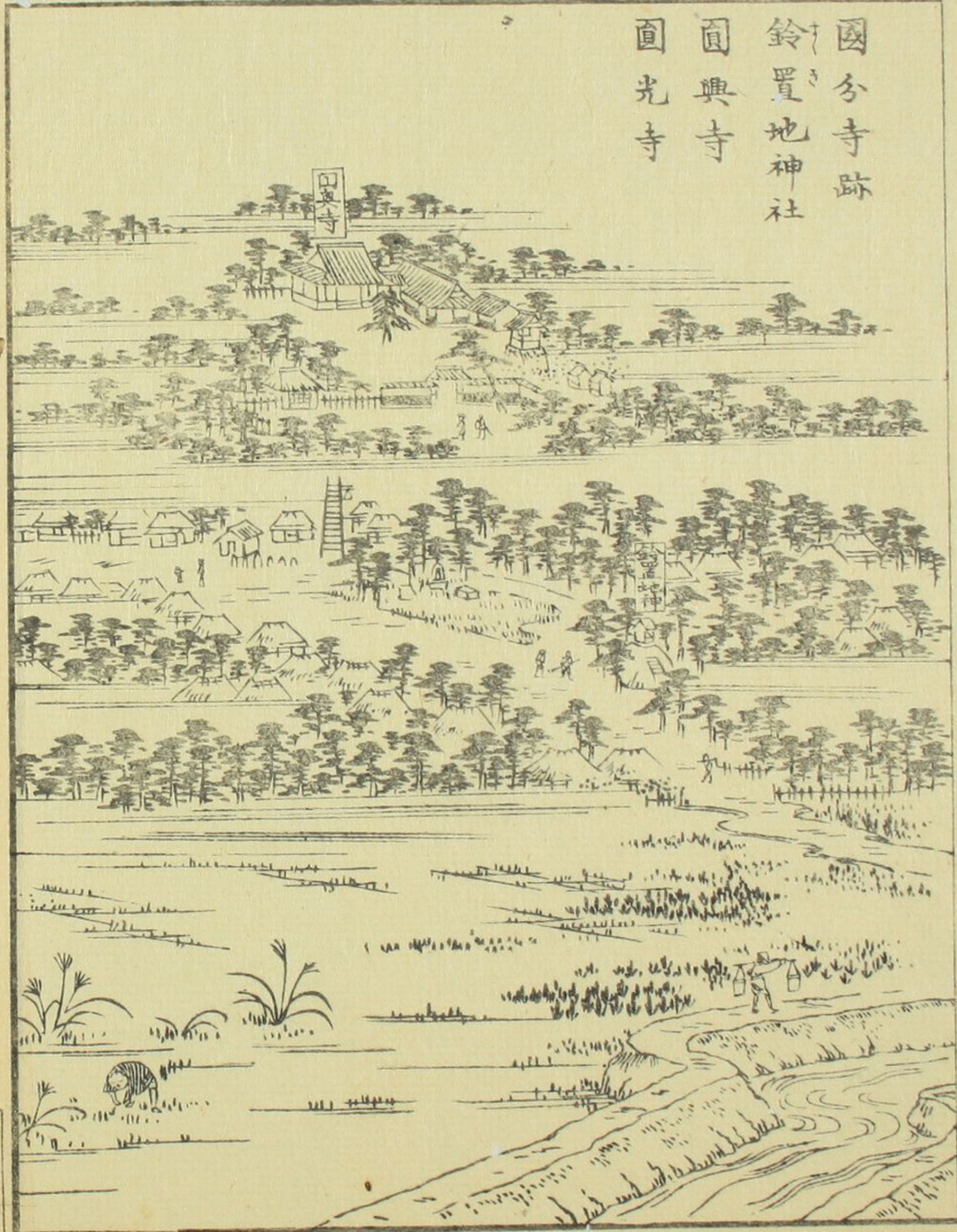
國分寺廢跡

知合村のありて、今も礎石あり、古瓦多く地中に埋  
れ、  
聖武天皇佛道と、  
の僧尼小命と、法華經寂勝王經と、溝どり、  
扶桑畧記神皇正統記  
等の諸書にあり、  
續日本紀曰天平十三年三月乙巳

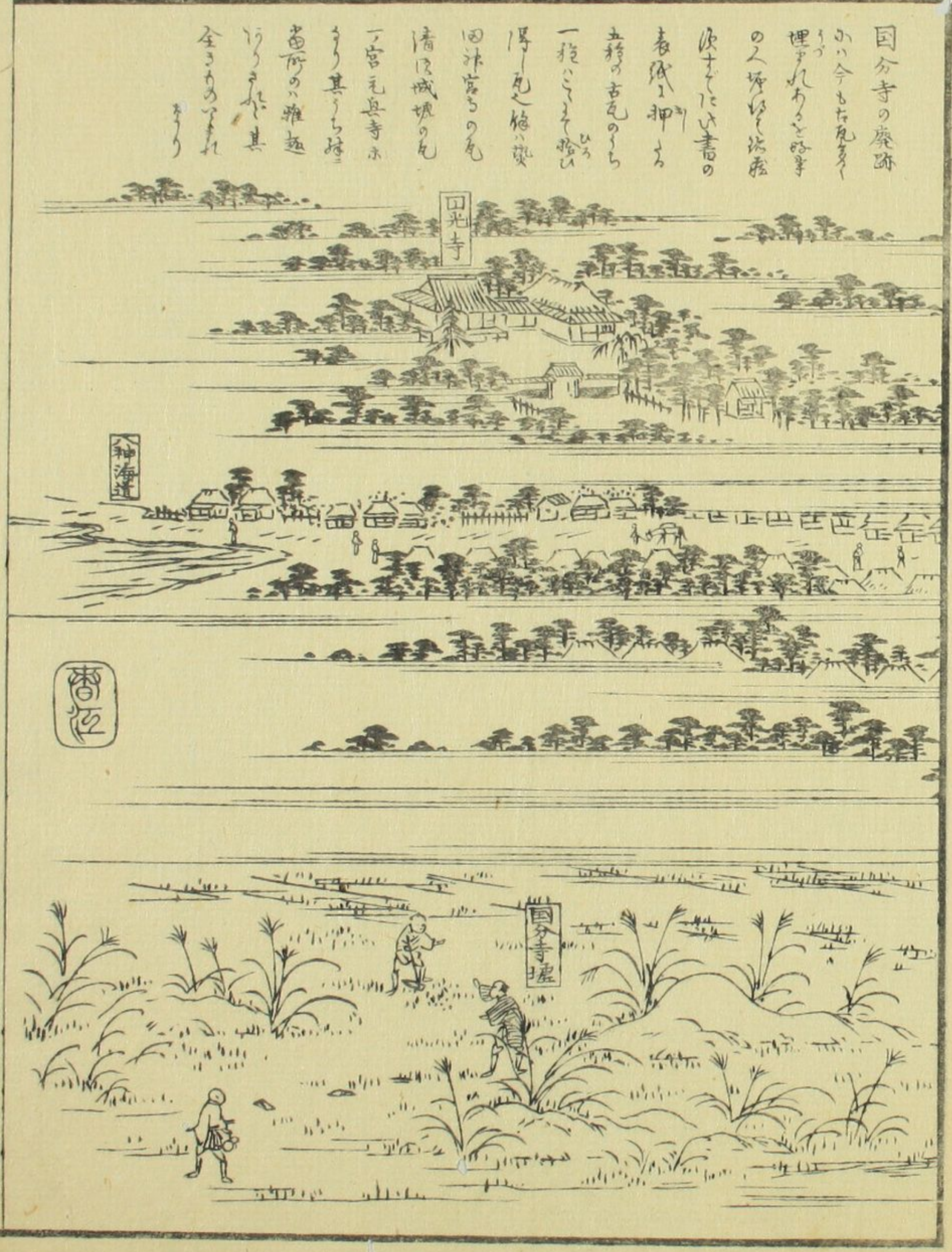
詔曰宜令天下諸國各敬造七重塔一區并寫金光明寂  
勝王經妙法蓮華經各一部  
續日本紀曰天平十三年三月乙巳  
朕又

際く諸公に國分寺又國分尼寺と建て國土安穩のしり小多  
の僧尼小命と法華經寂勝王經と溝どり、  
扶桑畧記神皇正統記  
等の諸書にあり、  
續日本紀曰天平十三年三月乙巳  
詔曰宜令天下諸國各敬造七重塔一區并寫金光明寂  
勝王經妙法蓮華經各一部  
續日本紀曰天平十三年三月乙巳  
朕又  
別擬寫金字金光明寂勝王經每塔各令置一部所真聖  
法之盛与天地而水流擁護之恩被幽明而恒滿其造  
塔之寺兼為國華  
印行本華と花と  
今金沢本と  
必擇好處實可長久  
近人則不欲薰臭所及遠人則不欲勞衆歸集國司等  
各宜務在嚴飾兼盡潔清近感諸天庶幾臨護布告遐  
迩令知朕意又每國僧寺施封五十戸水田一十町尼

國分寺跡  
 鈴置地神社  
 圓興寺  
 圓光寺



國分寺の廢跡  
 此の今も古瓦多  
 埋れありて  
 の人皆曰く此處  
 依りては古書の  
 表紙に押さる  
 五輪の古瓦の  
 一粒こゝを拾ひ  
 得て凡そ徳の  
 田沐宮らの名  
 清は城の丸  
 一宮元興寺  
 あり其の  
 處所の難  
 けり其  
 全さの  
 あり



神海

寺水田一十町僧寺必令有二十僧其寺名為金光明  
四天王護國之寺尼寺必令有一十尼其寺名為法華  
減罪之寺云云 又曰神護景雲元年五月戊辰尾張  
國海部郡主政外正八位下刑部岡足獻當國國分寺  
米一千斛授外從五位下 又曰天平感宝元年五月  
戊寅尾張國山田郡人外從七位下生江臣安久多印行  
本安  
延喜主稅式云尾張國正稅公廨各廿万束國分寺料  
二万束文殊會料二千束 元亨釋書云釋光勝不言  
姓氏為沙弥時自稱空也人又不諱言空也少好佚遊  
天下殆遍弱冠於尾州國分寺薙髮為沙弥天慶元年  
入王城於市鄺唱弥陀勸化人人呼為市上人云云  
鈴置地神社 同村にあり本國帳小中島郡正四位下鈴置地神とあるは此の由村と  
むりハ鈴置郷といひしり少島も所産の古語又みえりし源倉

將軍宗尊親王之御息女梅君二十六歳小ありまけり時宗於より陸奥へ逃びて  
わたりあつてひりりとしてとせよとせよひけり此の杜あり山盛ふとてはりかまは  
ちりりの場と築き清善院と名ひたり 田中肥後守とてふ者ありこのありてはり  
名をうけて後小幡原を村といひ 其塚と梅塚といひりやうて里の  
うらひ 甲氏といひり

万松山圓光寺

同村にあり臨濟宗妙興寺末永和元年の由光の田光大照禪師創  
建後則禪師の本像と安置 田石碑あり此ハ禪師遷化の地  
なり

鈴置山圓興寺

同村にありて因宗末由光も永和元年大照禪師の創建して  
今俗にあふり寺といひり本尊は本佛 又境内に秋迎堂あり  
其内小因分寺の本尊ありて少少めまの本仏と安置又秋園殿夫婿と名づけり老  
翁老嫗の像と安置す其秋園殿いりり人々今もあふり 位牌ありて田興寺殿  
十一日の文字ありり此本像と俗に織姫伴といひあり此の由光の冥基ありり

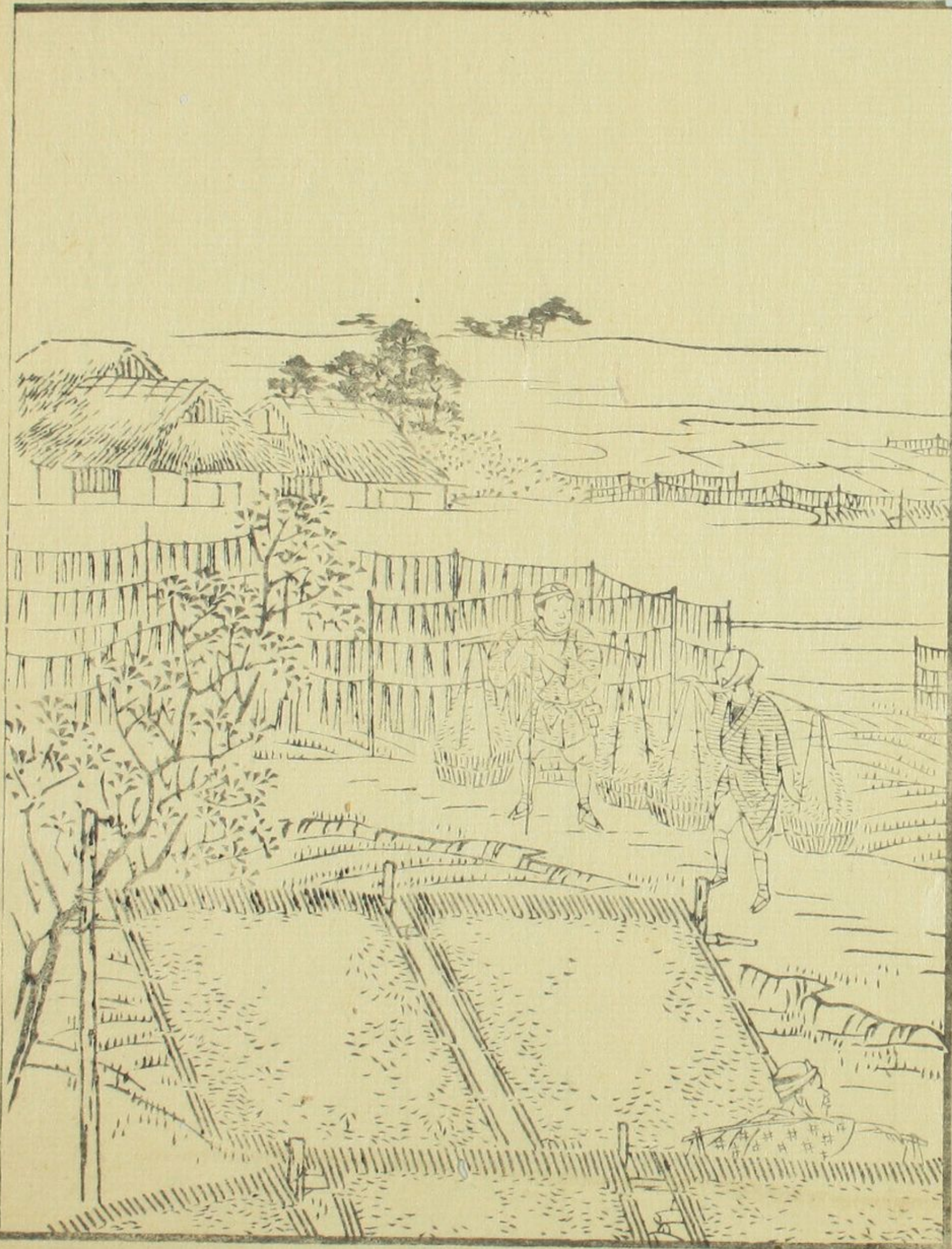
名産大根切干

同村及び近村を 惣次郎千織切干輪切干等を多く作りてあふり  
きりて諸少運送せりり 野一良に由光名産の絶品ありあり

船橋舊址

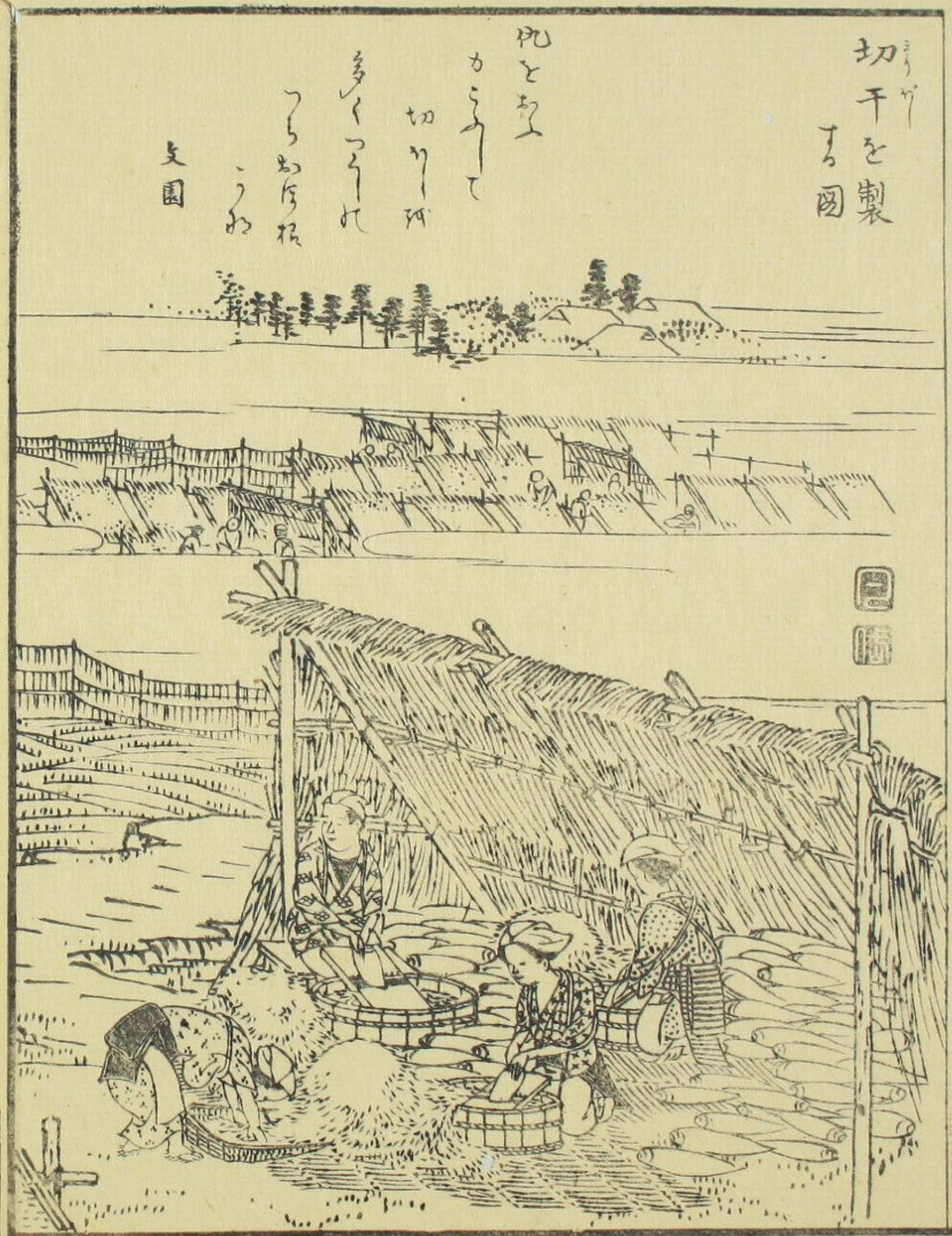
船橋村にあり本名川の支流とてむりハ船橋とてりりけりやどの大川より  
せ川よりせ川等の  
末の埋れあり

女貞廣島  
貞法



切干を製  
する所

此と  
カ  
切  
多  
お  
文  
園



三  
三

船橋観音堂

月十七日十八日に馬の塔と出次張良志畧に大悲山安樂寺とあり

大鈴山園鎮寺

法華寺村あり曹洞宗 越前国府中至田寺末

ト、国分尼寺、精治一たりあり

地、いづれが荒廢し其跡、再興して曹洞の禪刹とたり

必分尼ち、法華滅罪之寺と名づけたり、續日本紀扶

桑畧記元亨釋書の資治表等に、いづれめく法華之寺と

いづれが村名小砂、いづれめくむじりの地、老松樹ありて巨

蛇も退散し、いづれめく今の園鎮寺興立の、ら松も此是とせ

巨蛇も退散し、いづれめく陸尾にふる尼ち、今法花村谷椿寺といはれ院あり

白山権現社

同村にあり、社小古き、沖流一面りて裏銘に駿河國菅原郡源義恭敬白

山口保

山口村といふ保、今五人組の、里といふ、保の、古暦二年二

野見神社廢跡

浅井村ありて、今其地とせ見と、いづれめく、式内、本國帳、徒三位野見

浅井神社廢跡

同村にあり、いづれめく、式内、本國帳、徒三位浅井天神とあり、いづれ

河俣下天神社

片糸一色村の、河俣といふ、地に、いづれめく、今白山権現と稱、本國帳

旭照山善應寺

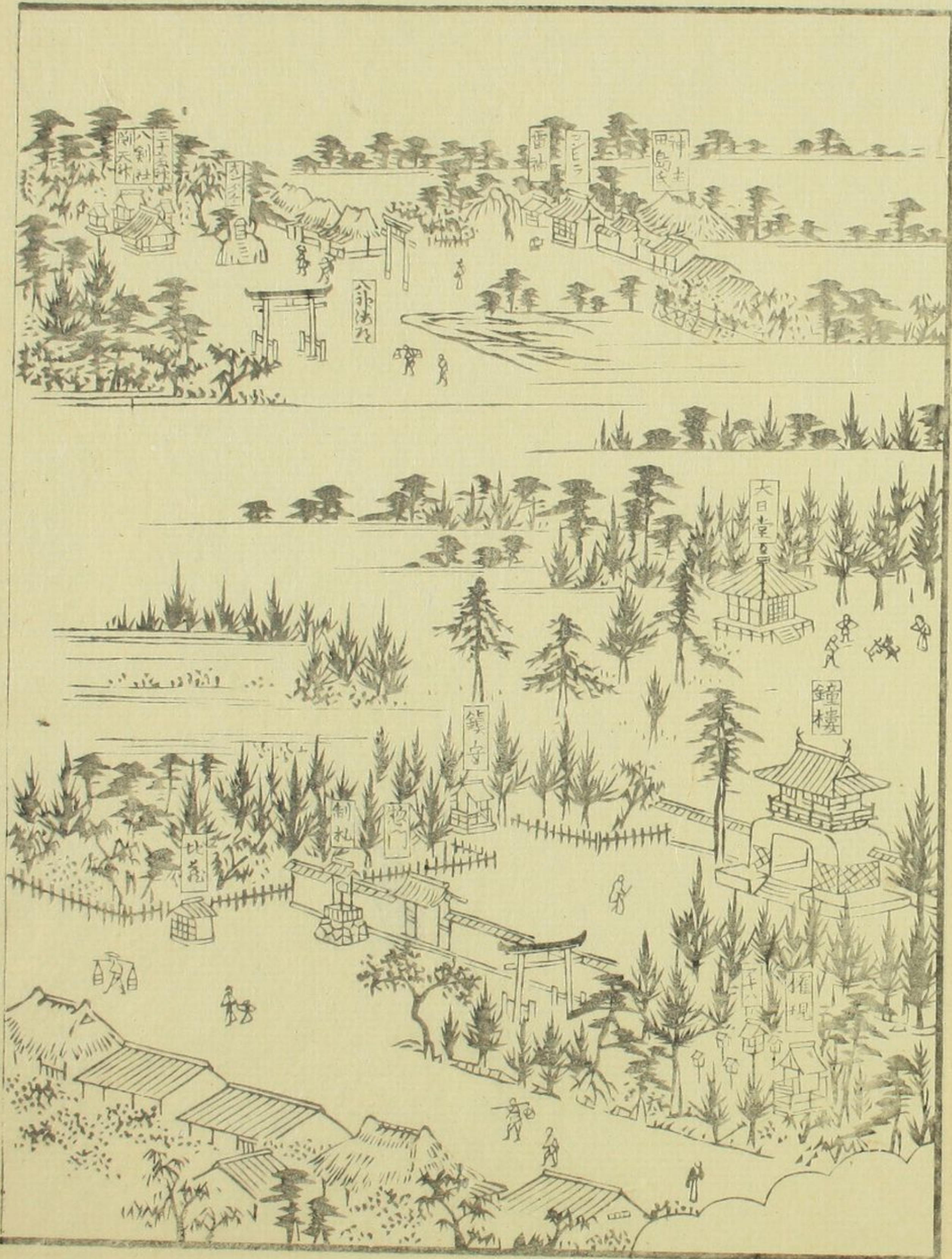
同村にあり、寺、土宗、建仁年中一色左京大夫滿吉といふ人

叡山の乘蓮上人と招清一師

小隨つゝ受戒、難髪の後、法守

二百餘年と経て橋本伊賀守

同郡三宅村の人といふ、其後、其



善應寺  
川曲八劍社

八劍社の境内より金毘羅社  
のありは似の拝殿とまじり  
并築と奏し投針とあは  
あまのこゝろ揃ふは亦西表  
胡宮より奉納の帳とあすを  
まつゝの古くおきかたを  
びきりての大堀人なり





本寺と別堂に安置一阿弥陀如来となるも今の家を改りて

格中伊賀守の位牌ありて善應院月窓明田居士慶長元年丙申二月十五日卒とあり塔頭院鎮守社秋葉

八剣社 同村あり初清年月ありは中世苗村の塔を格中伊賀守再建一父連の頃也

羅社 同村あり延喜神名式に則非にありは延喜八剣大神と夫婿の清非ありと

雷神社 境内にあり苗村ありは延喜神名式に則非にありは延喜八剣大神と夫婿の清非ありと

布智神社 甲新田ありは延喜神名式に則非にありは延喜八剣大神と夫婿の清非ありと

一位布智天神 一本に淵天神又 淵森天神とあり

年中に鎮火祭の御禱を官命とりてのひておとどく社

例祭 近年あはれ火難除の守とわはれはきりと所持されは未社稲荷神主田島

野田正琳寺 同村ありは延喜神名式に則非にありは延喜八剣大神と夫婿の清非ありと

交安三年豫州石津郡太田村ありは延喜神名式に則非にありは延喜八剣大神と夫婿の清非ありと

王塚 山崎村にあり塚の上に地蔵の石像あり形古雅なりは延喜神名式に則非にありは延喜八剣大神と夫婿の清非ありと

徳永法印城壘 同村にあり其わき今田圃とあり徳永石見守昌時より式部御法印壽

八劍宮社 玉井村にあり本國帳集説の式内の布智神社とありは延喜神名式に則非にありは延喜八剣大神と夫婿の清非ありと

伊福部御厨 同村にあり延喜神名式に則非にありは延喜八剣大神と夫婿の清非ありと

鹽江神社 中津村にあり延喜神名式に則非にありは延喜八剣大神と夫婿の清非ありと

延喜神名式の中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式の中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式の中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式の中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式の中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式の中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式の中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式の中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式の中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式の中島郡鹽江神社本國帳小

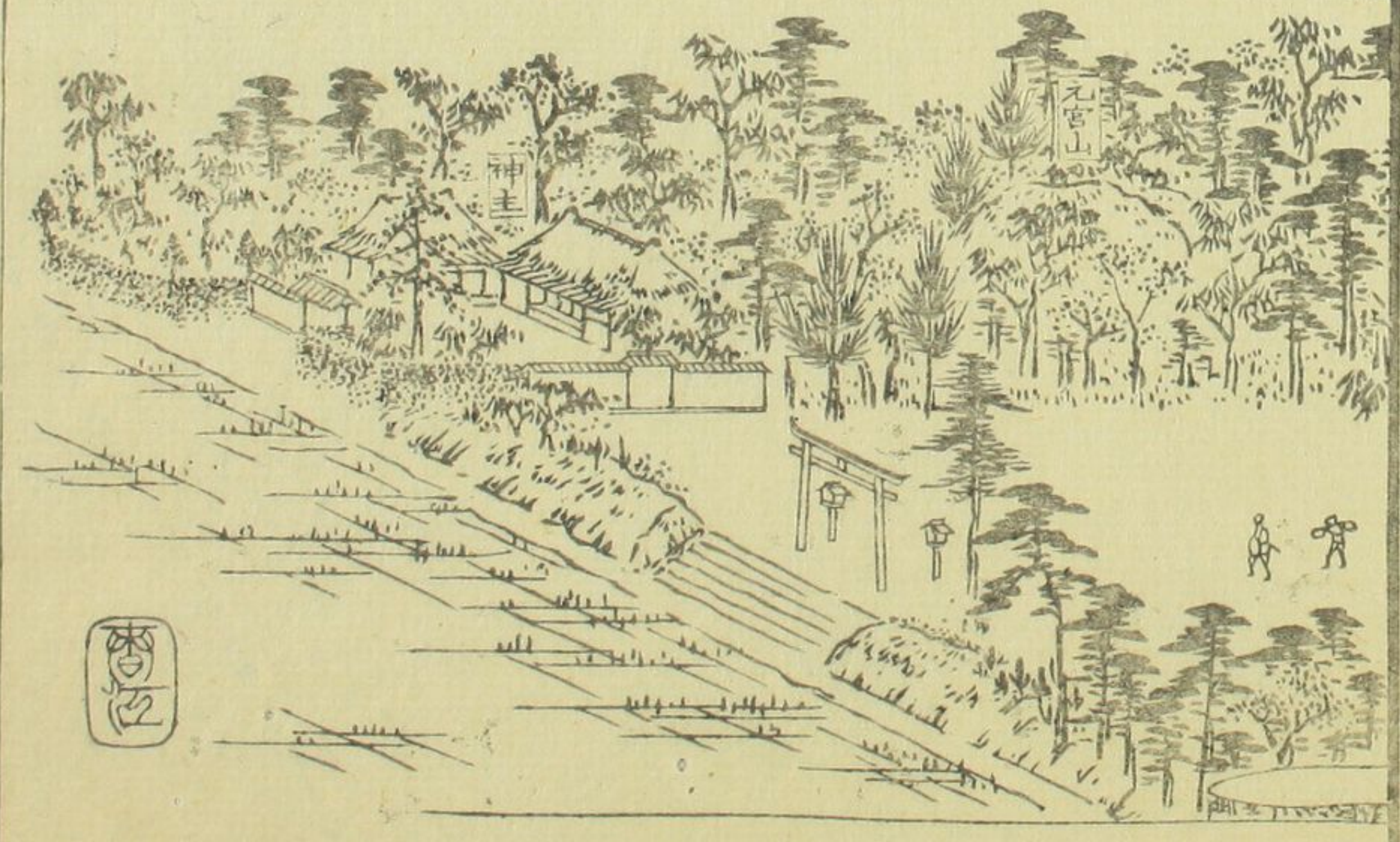
延喜神名式の中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式の中島郡鹽江神社本國帳小

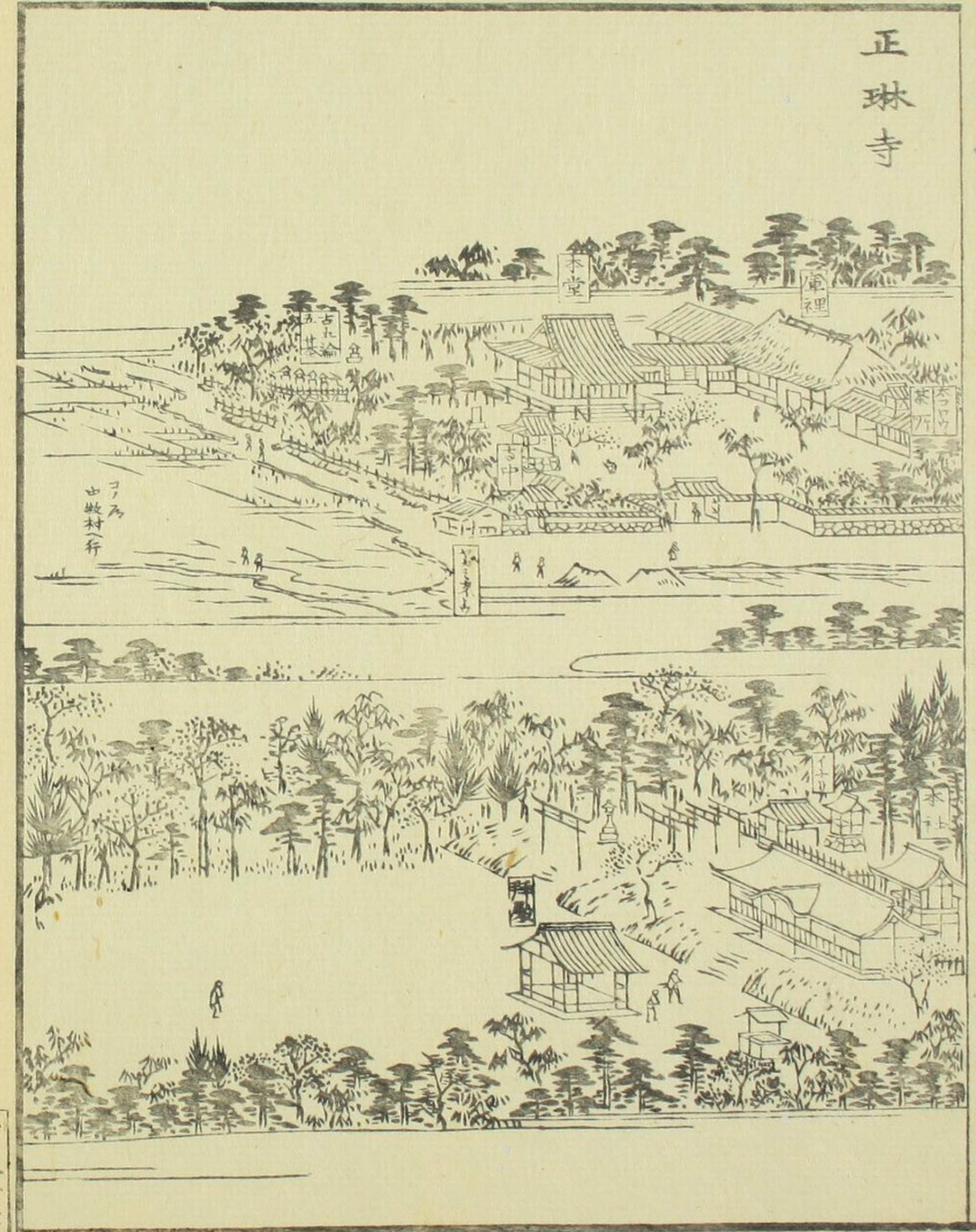
延喜神名式の中島郡鹽江神社本國帳小

布智神社

もろもろ  
あまのつた  
あまのつた  
あまのつた  
氷室長翁



正琳寺



祖父江堤  
永張寺  
廣口川  
神明社

梓多々  
きにあききり  
廣口川  
川のく紀略  
あろゆ  
南景



池古  
あけふの  
浮島

南

横井氏

廣口川

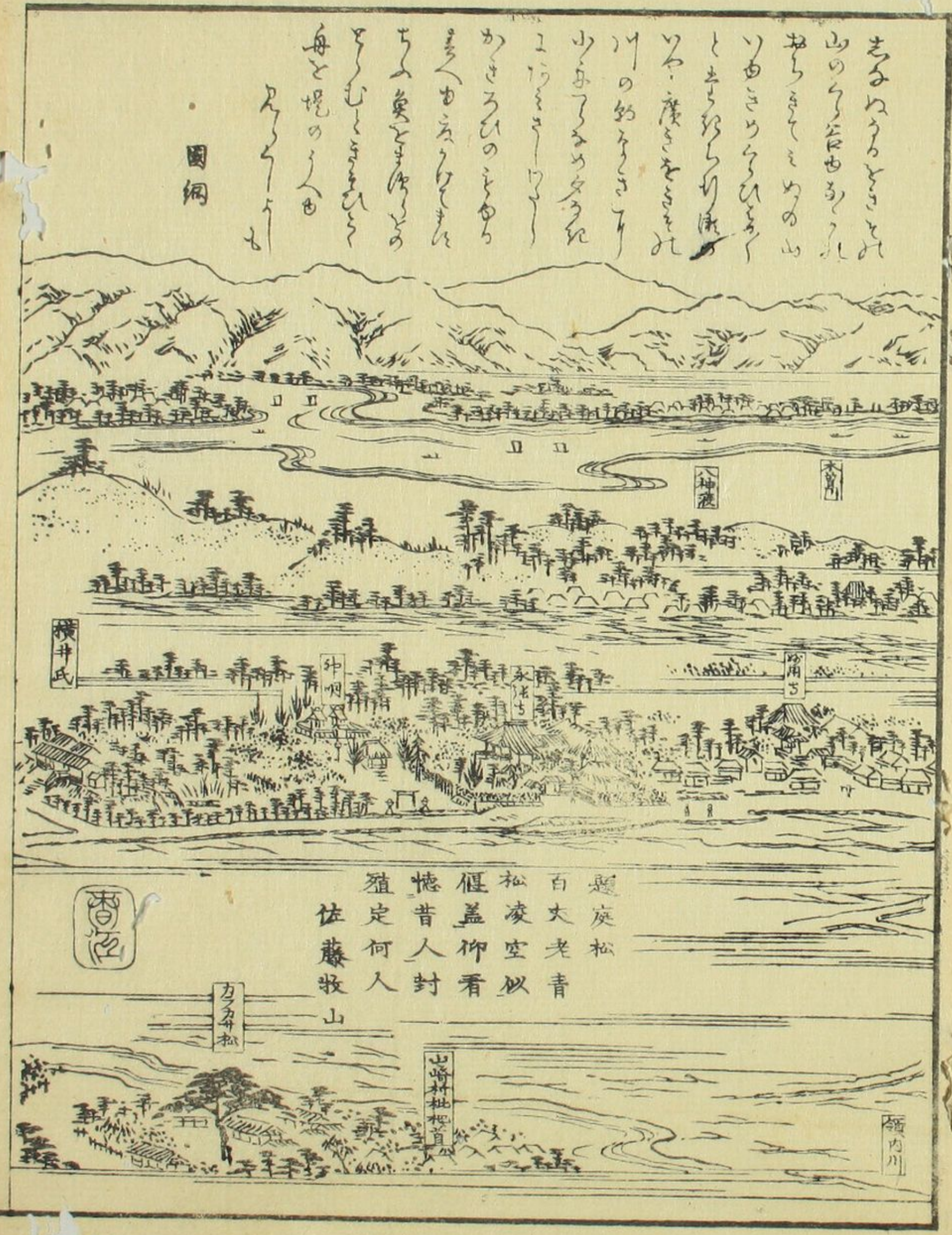
山

山

二ノ十八

志みわらふとよと  
山のくくもあし  
おしきしきめめ  
りゆきりくひ  
くまおしりし  
りや、廣口川  
川のく紀略  
少きつさりた  
こりきり  
かさろひの  
まもあし  
らん莫と  
あしむ  
舟と堤の人

圓網



題 松  
百丈老青  
松凌空似  
徑蓋仰看  
憶昔人封  
殖定何人  
佐藤牧山

香

方名松

山

内川

從三位鹽江天神とありて正月七日の祭年と陸に祭と稱する

之は神の跡とあり 本國帳集説に臨川村の八幡といふは官社と代されど陸に陸川

陸にありて地名の如く大塚村性海寺所藏の建武の頃の

証状小中島郡臨江とありて中野村の古名とあり

中野渡

中野村より本野川と號して美濃の八幡と稱す其の跡は八幡川と毛

名産櫻鮫

此は及び起川の名産之形もろくは三月桜花咲きの時其味よく

一弓山永張寺

下祖又は村の曹洞宗 永祿元年三ツ洲村正眼寺十世

周泰和尚あちと開基 一説の文 明年中 鳳洲寺と名づけしを寛永八未

年八月 一説九年 七月 横井作左衛門時久法名一弓永張居士再建し

神明社

同村のり文正年中祖又は領主祖又は五郎左衛門尉久豊よりして御清り

祖父江の古城址

同村のり文正年中祖又は領主祖又は五郎左衛門尉久豊よりして御清り

祖父江竿鷹

横井十郎左衛門先祖作左衛門時久鍛錬して仕わ

行り先一奇事とてその池川より四五町も方と放て忽ち揚々と六

七尺も仰ん竿とてびの多れ方一折小竈ハそより竿を目由小蛇

行り先一奇事とてその池川より四五町も方と放て忽ち揚々と六

七尺も仰ん竿とてびの多れ方一折小竈ハそより竿を目由小蛇

行り先一奇事とてその池川より四五町も方と放て忽ち揚々と六

七尺も仰ん竿とてびの多れ方一折小竈ハそより竿を目由小蛇

行り先一奇事とてその池川より四五町も方と放て忽ち揚々と六

長岡庄

上牧村中牧村二俣村等の教村と云康正二年造内裏段錢并因樹引付に雅樂備

皇大明神社

中牧の宮に雨成  
みづつて

雨はるるの

神世の清名此

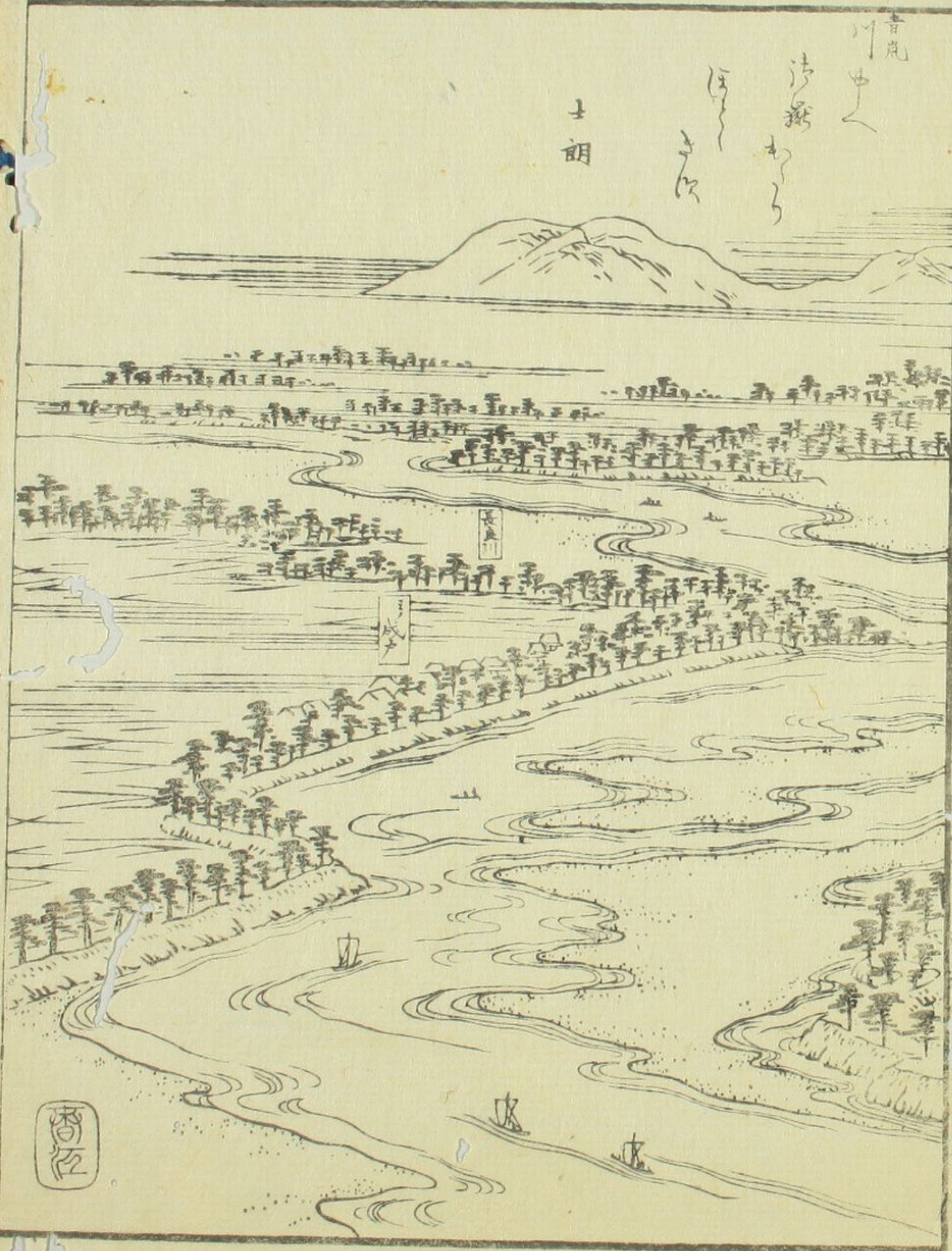
河くまの神く

山くまの神

あはれきん

貞足





音尾

沙路

河

士胡

香江

岐蘇川  
長良川  
神明津  
落合



仙巖

小坂

四坂

城原

神明

三ノ四十一



